

2009 年春季年会

年会プログラム

於 大阪府立大学

2009 年 3 月 24 日 (火) ~ 3 月 27 日 (金)

日本天文学会

日本天文学会 2009 年春季年会プログラム

期 日 2009年3月24日(火)～3月27日(金)

場 所 大阪府立大学(大阪府堺市)

電 話 090-4387-6893 <使用期間 2009年3月23日(月)～3月28日(土)>

日 程

月日	会場	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	
3月23日 (月)							記者会見					
3月24日 (火)	A	受 付			A. BH 時 空		ポスター	A. BH 時空	天文教育 フォーラム (A会場)			
	B				K. 超新星爆発			K. 超新星爆発				
	C				L. 太 陽 系			L. 太 陽 系				
	D				U. 宇 宙 論			U. 宇 宙 論				
	E				S. 銀 河 核			S. 銀 河 核				
	F				Y. 教 育・他			Y. 教 育・他				
	G				M. 太 陽			M. 太 陽				
3月25日 (水)	A	A. BH 時 空	昼 休 み (理事会)	ポスター	A. BH 時空	Fermi 特別講演 (H会場)	総 会 出 席 者 確 認	総 会 (H会場)	林 賞 受 賞 記 念 講 演	懇 親 会		
	B	K. 超新星爆発/J. 高密度星			J. 高密度星							
	C	P. 星・惑星			P. 星・惑星							
	D	U. 宇宙論/N. 恒星			N. 恒 星							
	E	S. 銀 河 核			V. 地 上 観							
	F	W. 飛 翔 観			W. 飛翔観							
	G	M. 太 陽			M. 太 陽							
	H											
3月26日 (木)	A	T. 銀 河 団	昼 休 み (評議員会)	ポスター	X. 銀河形成	研究奨励賞 受賞 記念講演 (H会場)	ALMA 特別セッション (H会場)					
	B	J. 高 密 度 星			J. 高 密 度 星							
	C	P. 星・惑星			P. 星・惑星							
	D	N. 恒 星			Q. 星 間							
	E	V. 地 上 観			V. 地 上 観							
	F	W. 飛 翔 観			W. 飛翔観							
	G	M. 太 陽			R. 銀 河							
	H	ジュニアセッション			ジュニアセッション							
3月27日 (金)	A	X. 銀河形成	昼 休 み	ポスター	X. 銀河形成							
	B	J. 高 密 度 星			J. 高 密 度 星							
	C	P. 星・惑星			P. 星・惑星							
	D	Q. 星 間			Q. 星 間							
	E	V. 地 上 観			V. 地 上 観							
	F	W. 飛 翔 観			W. 飛翔観							
	G	R. 銀 河			R. 銀 河							
3月28日 (土)		公開講演会										
		10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	

A 会場 : B 3 棟 1F (117 室)
 B 会場 : B 3 棟 1F (118 室)
 C 会場 : B 3 棟 1F (116 室)
 D 会場 : B 3 棟 1F (119 室)
 E 会場 : B 3 棟 2F (201 室)
 F 会場 : B 3 棟 2F (202 室)
 G 会場 : B 3 棟 2F (203 室)
 H 会場 : U-Hall 白鷺
 受 付 : B 3 棟 1F (107 室)
 会議室 : B 3 棟 1F (106 室)

ポスター会場 1 : B 3 棟 3F (301 室)
 ポスター会場 2 : B 3 棟 3F (302 室)
 ポスター会場 3 : B 3 棟 3F (303 室)
 ポスター会場 4 : B 3 棟 3F (304 室)
 ポスター会場 5 : B 3 棟 3F (305 室)
 ポスター会場 6 : B 3 棟 3F (306 室)
 ポスター会場 7 : B 3 棟 3F (313 室)
 ポスター会場 8 : B 3 棟 3F (317 室)
 展示コーナー : ポスター会場 2
 インターネット : B 3 棟 2F (204 室)
 懇親会会場 : 大阪府立大学生協食堂

◎講演数

講演数：合計 646

(口頭講演 (a)：420、ポスター講演 (b)：175、ポスター講演 (c)：51)

◎参加登録について (参加者は、当日必ず参加登録をして下さい。)

○参加費用

	会 員	非会員
参加費	3,000 円 (不課税)	5,000 円 (消費税込み)
(但し会員で講演有りの場合、参加費は無料)		
講演登録費	3,000 円 (不課税)	5,000 円 (消費税込み) (1 講演につき)
年会予稿集	1,000 円 (消費税込み)	1,000 円 (消費税込み) (購入希望者のみ)

○参加登録受付場所：受付 (B 3 棟 1 F 107 室)

○参加登録受付時間：24 日 11：00～16：00
25 日 09：30～16：00
26 日 09：30～16：00
27 日 09：30～14：00

※参加費・講演登録費は、会期中に受付にて忘れずにご納付下さい。

※参加費用支払い時に渡される領収書は、所属機関で必要となる場合もありますので、大切に保管してください。

※講演登録者は、講演申し込み後にキャンセル等しても、講演登録費を支払う必要があります。

※懇親会に参加される方は、参加費・講演登録費の支払いに続いて、隣の懇親会専用の受付にて懇親会の参加費をお支払いください。

◎講演に関する注意

1. 口頭発表は 7 会場で並行して行います。口頭講演 (添字 a) は、口頭発表 9 分、質疑応答 3 分です。ポスター講演 (添字 b) は、口頭発表 3 分、3 講演で 12 分を割り当て、座長の判断で質疑応答を行います。

※時間厳守：講演制限時間を超過した場合は、直ちに降壇していただきますので、講演者の皆様は制限時間を厳守できるよう特に万全の準備をお願いします。

2. ポスター発表 (添字 b)、(添字 c) は、4 日間掲示できます。ポスターは縦 180 × 横 90 cm まで掲示できます。ポスター会場の指定された場所に、3 月 24 日の 12：00 から 3 月 27 日の 14：00 まで掲示できます。終了後は速やかに撤去してください。
3. 講演には液晶プロジェクタまたは書画カメラをご使用下さい。液晶プロジェクタは、セッション開始前に PC の接続を確認して下さい。念のため、書画カメラでの発表もできるようにしておくといでしょう。なお、今回の会場の書画カメラは紙のみに対応しています。OHP シートは使えません。書画カメラ使用の場合は、A4 の紙で発表をご用意ください。講演時間は、直前の講演者が降壇した時点から計り始めます。迅速に講演が始められるよう、次の講演者は前の講演中に PC を接続しておいて下さい。

◎会期中の行事

1. 記者会見 : 23日(月) 14:00～15:00
年会講演の中から、数件のトピックスを選び、記者会見を行います。
2. 天文教育フォーラム : 24日(火) 17:00～18:30 A会場
3. 理事会 : 25日(水) 12:00～13:00 会議室
4. Fermi特別講演 : 25日(水) 15:10～15:50 H会場
5. 総会 : 25日(水) 16:00～17:30 H会場
(16:00～16:30 総会出席者確認、16:30 総会開始)
各賞の受賞
○ 2008年度事業報告
○ 2008年度決算報告
○ 監査報告
6. 林忠四郎賞受賞記念講演: 25日(水) 17:30～18:00 H会場
7. 懇親会 : 25日(水) 18:30～ 生協食堂
8. 評議員会 : 26日(木) 12:00～13:00 会議室
9. 研究奨励賞受賞記念講演: 26日(木) 16:00～17:00 H会場
10. ALMA特別セッション : 26日(木) 17:00～18:30 H会場
11. 公開講演会 : 28日(土) 13:00～17:00 学術交流会館多目的ホール

◎天文教育フォーラム

テ ー マ : 「学校教員の持つべき天文ミニマムとその支援」
日 時 : 2009年3月24日(火) 17:00～18:30
場 所 : A会場
主 旨 : 2009年度から教員免許の有効期限を10年間とし、更新には30時間の講習の受講が義務づけられた「教員免許更新制」が始まります。それを前に2008年7月から全国の大学などで更新に必要な講習(予備講習)が実施されています。本格的に実施されると、対象者は「教育の最新事情」(必修領域、12時間以上)、「教科指導、生徒指導、その他教育内容の充実」(選択領域、18時間以上)をそれぞれ受講することになります。この18時間の講習は、文部科学省が「幼児、児童または生徒に対する指導上の課題」と定めているだけで、自由なテーマ設定が可能です。理科分野においてもさまざまなメニューが用意されるはずですが、しかし予備講習を実施した大学や受講者などからは講座の手法にばらつきが大きいことやその評価基準や方法を巡って問題点が指摘されています。

この機会に小中学校の現場において教員自身が最低限理解すべきミニマムが何で、そのためには日本天文学会や天文教育普及研究会からどのような支援ができるのかを考えることは時期を得たものでしょう。学校教員、特に小学校教員には理科が苦手な人が多くいます。また、観察がやりづらい分野、特に天文分野は敬遠されがちで、宿題と家庭におしつけて終わっている場合もあるようです。このような教員を含めた、毎年約10万人にも上る受講者の受け皿を確保する上で、天文学が果たせる役割は小さくないと思われます。天文に強い教員の育成は天文学の発展にとっても欠くことができないでしょう。これをきっかけに、天文学を学ぶ・教える意義や効果を広く伝えるチャンスと考えてはどうでしょうか。

話題提供者 : (1) 現場教員から 渡辺洋一(大阪市立玉出中学校)
(2) 教員を養成する立場から 高橋真聡(愛知教育大学)
(3) 普及経験者の立場から 高梨直紘(国立天文台/広報普及員)
(4) 研究者の立場から 関口和寛(国立天文台/国際連携室長)
(5) 天文以外の理科教育の関係者から TBD

実行委員 : 仲野誠(大分大学)、尾林彩乃(大阪府堺市)、縣秀彦(国立天文台)、松本直記(慶応高校)

◎特別講演

テ ー マ : 「Fermi ガンマ線宇宙望遠鏡の半年間の成果」

日 時 : 2009年3月25日(水) 15:10～15:50

場 所 : H会場(U-Hall 白鷺)

講 演 者 : 深沢泰司(広島大学・教授)

概 要 : Fermi ガンマ線宇宙望遠鏡は、20MeV-300GeV 領域を高感度で全天サーベイする観測衛星であり、日本も10年にわたって製作に大きく貢献してきた国際共同ミッションである。2008年6月に打ち上げに成功して以来、順調に全天サーベイ観測を続けており、これまでATELやGCNなどに、突発天体のガンマ線フレア情報、あるいはガンマ線バースト検出情報を既に流しており、予想通りの性能を発揮している。既に、超新星残骸CTA1に付随するガンマ線パルサーの発見に関する論文を発表し、2008年12月時点までに数編の論文がsubmitされている。最初の1年間のデータはFermi teamの占有となっており、関心の高い22個のブレイザーと1個の γ 線連星、および 2×10^{-6} c/cm²/sのフラックスを超えた天体の光度曲線はすでに公開されており、3ヶ月ガンマ線源リストも2月に公開予定である。また、GBMデータはすべて公開されている。また、Blazar天体についてはFermi衛星を中心とした多波長観測が精力的に行なわれており、日本からも広島大学かなた望遠鏡や東京工業大学MITSuME望遠鏡が参加し、X線衛星「すざく」との同時観測も行なわれている。Fermiのデータでは、新種の天体も多く検出されており、ガンマ線の空の様子が一変しようとしている。パルサー、ガンマ線連星、銀河面diffuse放射、分子雲や超新星残骸、ガンマ線バースト、Blazarについては、従来に比べて質的に異なる精度良いデータが得られており、高エネルギー現象の理解が大きく進み始めている。今年会でもFermi関連の9個の一般講演を行なう予定であるが、本講演では打ち上げ後半年間に得られた成果全体を網羅する形で報告する。

◎ ALMA 特別セッション

日 時 : 2009年3月26日(木) 17:00~18:30

場 所 : H会場(U-Hall 白鷺)

概 要 : 電波天文国際プロジェクトALMAにおいては、本格運用前に少ないアンテナ台数で共同利用観測を開始する「初期科学運用」が2010年度から予定されている。ALMAを用いたサイエンスがいよいよ始動しようという中で、ALMAの3大科学目標である銀河の誕生、惑星系の誕生、宇宙の物質進化の研究においてALMAに期待されるサイエンスを議論する。ALMAの分解能(すばる望遠鏡やハッブル宇宙望遠鏡の10倍)とその感度(既存ミリ波望遠鏡の10-100倍)によってどのようなものが見えてくるであろうかを、関連する理論分野の研究・シミュレーションなどをもとに俯瞰し、ALMAにおけるサイエンスを展望する。

プログラム:

1. はじめに 立松健一 (国立天文台)
2. プロジェクト進捗 井口 聖 (国立天文台)
3. ALMAへの期待 : 銀河の形成 森 正夫 (筑波大)
4. 同 : 惑星の形成 小久保英一郎 (国立天文台)
5. 同 : 物質進化 相川祐理 (神戸大)
6. 討論

世 話 人 : 立松健一(国立天文台)

◎日本天文学会公開講演会

テ ー マ : 「新しい望遠鏡で未知の宇宙をさぐる」

日 時 : 2009年3月28日(土) 13:00~17:00 (開場12:30)

場 所 : 大阪府立大学なかもずキャンパス 学術交流会館多目的ホール

対 象 : 中学生以上・一般向け

趣 旨 : ガリレオが望遠鏡を自作し、人類として初めて宇宙を観測したのは、今からちょうど400年前のことです。ガリレオが宇宙の姿を見て驚愕したのと全く同じように、最先端の技術で作られた望遠鏡を覗くと、私たちは想像を超える宇宙のありさまに胸をおどらせます。現代の望遠鏡とはいったいどんなものなのでしょう。そこにはどのような技術が使われているのでしょうか。講演会では最新の技術を駆使した望遠鏡について、また、それらの望遠鏡による観測結果について、解説していただきます。さらに、実際に最先端の技術にふれることができるよう、望遠鏡等の展示も行います。

講 演 1 : 「想像を超えた激動の世界を見るX線望遠鏡」 国枝秀世(名古屋大学・教授)

講 演 2 : 「遠くの宇宙に第二の地球を探す赤外線望遠鏡」 芝井 広(大阪大学・教授)

講 演 3 : 「光では見えない闇の世界をとらえる電波望遠鏡」 小川英夫(大阪府立大学・教授)

講 演 4 : 「見えないブラックホールをとらえる電波望遠鏡」 井上 允(国立天文台・教授)

※入場無料、事前の参加申し込みは不要です。当日ご自由においでください。

ただし、会場の都合で入場を制限する場合がございます。収容定員300名。

春季年会会場（大阪府立大学）のご案内

交通案内

(1) JR 新幹線・新大阪駅より

大阪市営地下鉄御堂筋線で終点なかもず駅へ（約40分、360円）。

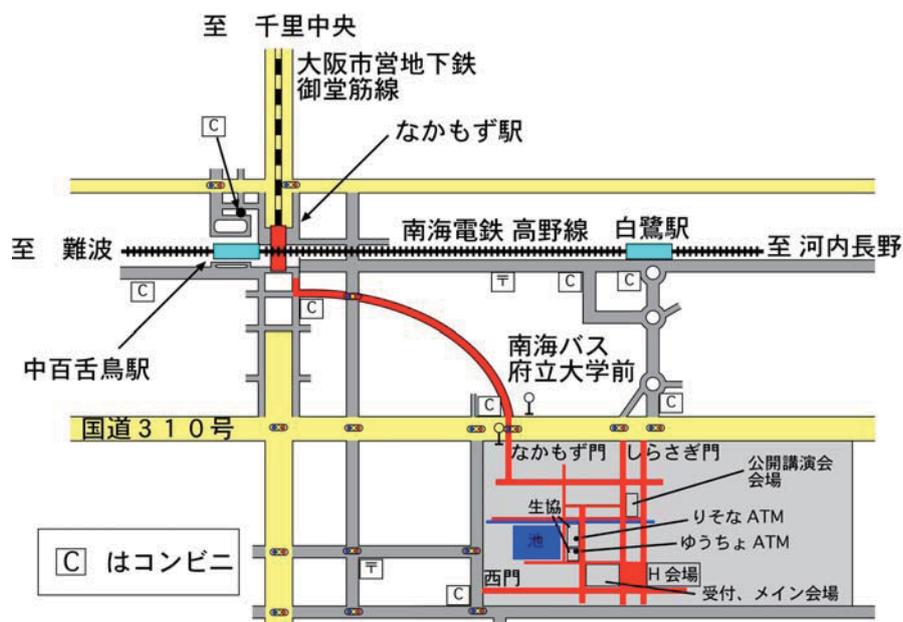
(2) 伊丹空港より

大阪モノレールで千里中央駅へ（12分、320円）。北大阪急行に乗り換え、終点なかもず駅へ（大阪市営地下鉄御堂筋線と直通運転、約50分、480円）。

(3) 関西空港より

JR で三国ヶ丘駅へ（35分、860円）。南海電鉄高野線に乗り換え、中百舌鳥駅（3分、150円）あるいは白鷺駅（5分、150円）へ。

大学周辺案内図



(1) 大阪市営地下鉄なかもず駅より（約 1,000 m, 徒歩約 20 分）

改札（1カ所しかありません）を出て左側へ。地下通路を通り、5号出口へ。地上に出るすぐの狭い道を左折。道なりに進むと、突き当たりが「なかもず門」。

(2) 南海電鉄中百舌鳥駅より（約 1,000 m, 徒歩約 20 分）

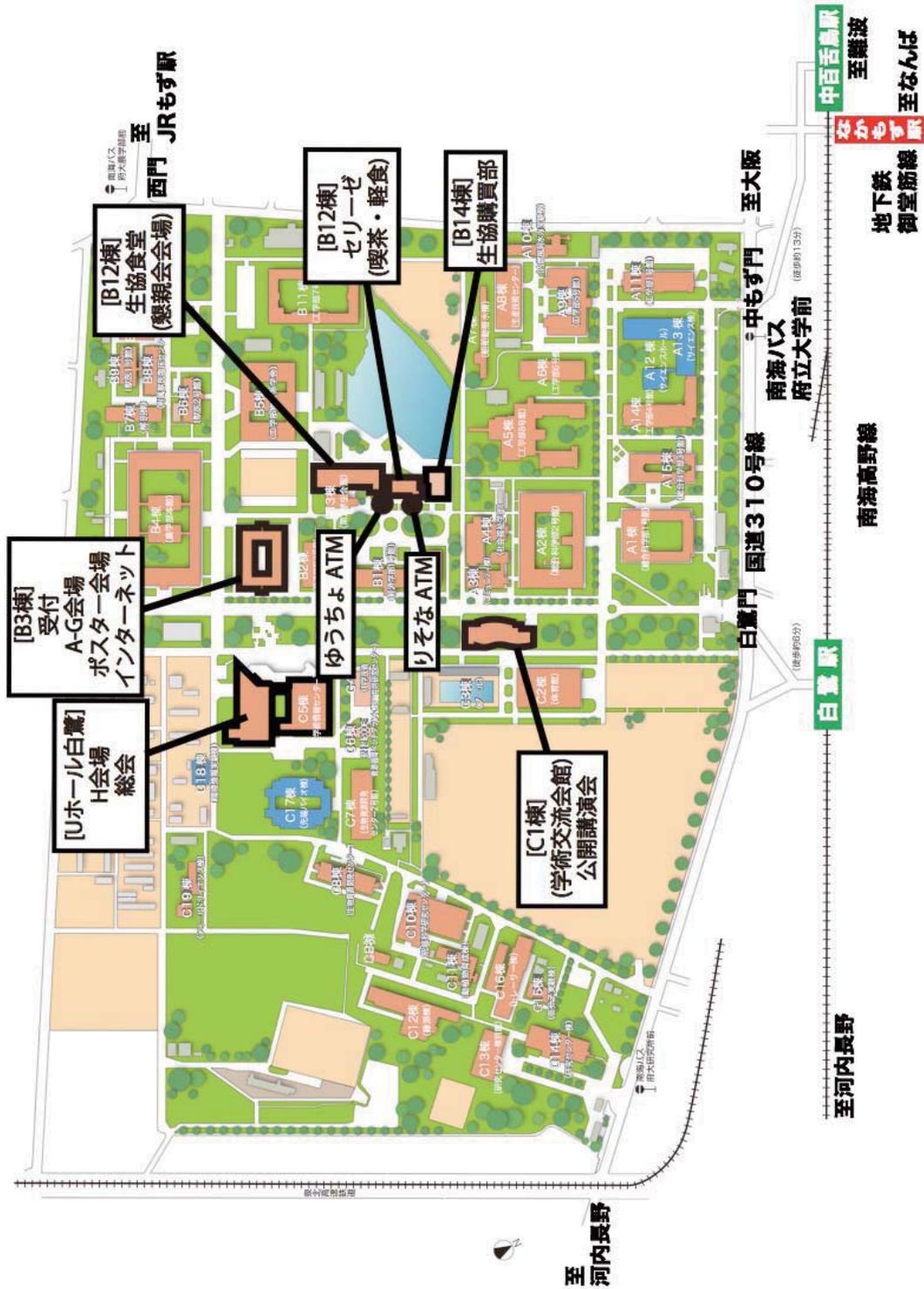
改札（2カ所ありますが、同じ所に出ます）を出て、南口へ。階段を降りた先に見える地下鉄6号出口の脇を抜けて（地下に入らない事）右折すると、地下鉄5号出口。以降は、上記「(1) 大阪市営地下鉄なかもず駅より」を参照。

(3) 南海電鉄白鷺駅より（約 500 m, 徒歩約 10 分）

改札（1カ所しかありません）を出て右側へ。線路に対して直角方向に向かう道を、突き当たりまで進む。途中に、駅前ロータリー以外に、ロータリー2カ所あり。突き当たりを右に折れると、「しらさぎ門」。

キャンパスマップ

車などでのご来場は、ご遠慮ください（入構できません）。建物内は、禁煙です。



講演会場・ポスター会場の案内

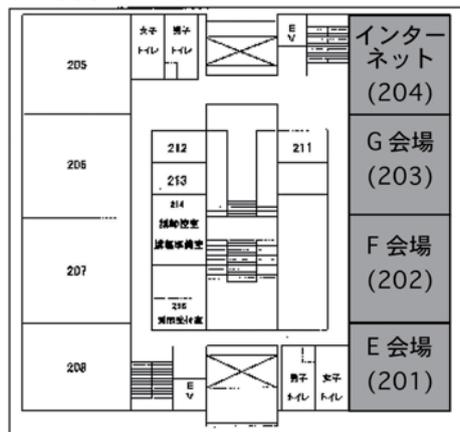
B3 棟

↑ 生協

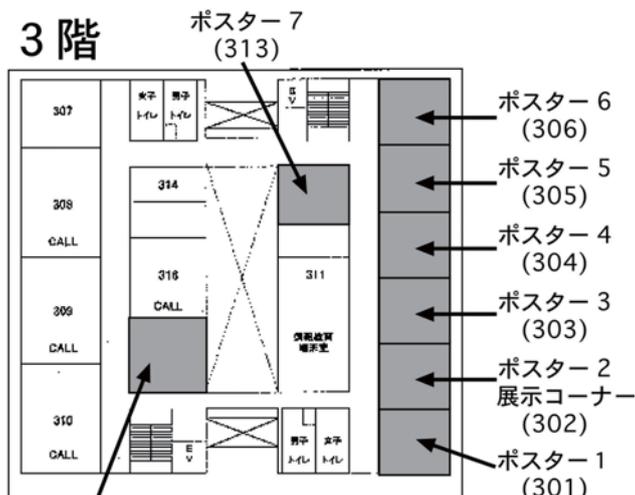
1 階



2 階



3 階



→ 白鷺門

↓ H 会場 (U ホール白鷺)

昼食など：

生協食堂： B12 棟 1 階 (定員：468 名、営業時間 11:00-14:45)

セリーゼ (軽食・喫茶)：B12 棟 1 階 (定員：45 名、営業時間 10:00-14:00)

書籍購買店： B14 棟 1 階 (営業時間 10:00-15:00)

年会開催地 HP:

<http://www.p.s.osakafu-u.ac.jp/asj2009a/>

口頭セッション 3月24日(火)

	A会場	B会場	C会場	D会場	E会場	F会場	G会場
開始時刻	【BH 時空】	【超新星爆発】	【太陽系】	【宇宙論】	【銀河核】	【教育・他】	【太陽】
13:00	A01r) A08a	K01a	L01a	U01a	S01a	Y01a	M01a
13:12		K02a	L02a	U02a	S02a	Y02b - Y04b	M02a
13:24		K03a	L03a	U03a	S03a	Y06a	M03a
13:36		K04a	L04a	U04a	S04a	Y07a	M04a
13:48		K05a	L05b - L07b	U05a	S05a	Y08b, Y09b, Y11b	M05a
14:00		K06a	L08a	U06a	S06a	Y12a	M06a
14:12		K07a	L09a	U07a	S07a	Y13a	M07a
14:24		K08a	L10a	U08a	S08a	Y14a	M08b - M10b
14:36		K09a	L11a	U09a	S09a	Y15b - Y17b	M11b - M13b
14:48		K10a	L12a	U10a	S10a	Y19a	M14b, M16b, M17b
15:00		K11b, K12b	-	-	S11b - S13b	Y20b, Y21b	M18b
15:00	ポスター						
開始時刻	【BH 時空】	【超新星爆発】	【太陽系】	【宇宙論】	【銀河核】	【教育・他】	【太陽】
16:00	A09a) A13a	K13a	L13a	U11a	S15a	Y22a	M19a
16:12		K14a	L14a	U12a	S16a	Y23a	M20a
16:24		K15a	L15a	U13a	S17a	Y24b - Y26b	M21a
16:36		K16a	L16a	U14a	S18a	Y28a	M22a
16:48		K17a	L17b	U15b, U16b	S19a	Y29b - Y31b	M23a
17:00	天文教育フォーラム (A会場)						

口頭セッション 3月25日(水)

	A会場	B会場	C会場	D会場	E会場	F会場	G会場
開始時刻	【BH 時空】	【超新星爆発/ 高密度星】	【星・惑星】	【宇宙論/ 恒星】	【銀河核】	【飛翔観】	【太 陽】
10:00	A16a) A23a	K18a	P01a	U17a	S20a	W01a	M24a
10:12		K19a	P02a	U18a	S21a	W02a	M25a
10:24		K20b - K22b	P03a	U19a	S22a	W03b - W05b	M26a
10:36		K23a	P04a	U20a	S23a	W06a	M27a
10:48		K24a	P05a	U21b - U23b	S24a	W07a	M28a
11:00		K25b	P06b - P08b	N01a	S25a	W08a	M29a
11:12		J01a	P09a	N02a	S26a	W09a	M30a
11:24		J02b - J04b	P10a	N03a	S27a	W10a	M31a
11:36		J05a	P11a	N04a	S28a	W11a	M32a
11:48		J06a	P12b - P14b	N05a	S29a	W13a	M33a
12:00	-	-	N06a	S30a	W14b, W15b	-	
12:12	-	-	-	S31b - S33b	-	-	
12:00	昼休み						
13:00	ポスター						
開始時刻	【BH 時空】	【高密度星】	【星・惑星】	【恒 星】	【地上観】	【飛翔観】	【太 陽】
14:00	A24a) A28a	J07a	P15a	N07a	V01a	W16a	M34a
14:12		J08b - J10b	P16b - P18b	N08a	V02a	W17a	M35a
14:24		J11b - J13b	P19b, P21b, P22b	N09a	V03a	W18a	M36a
14:36		J14a	P23b, P24b	N10b - N12b	V04a	W19a	M37a
14:48		J15b - J17b	P27a	-	V05a	W20b, W21b	M38a
15:10	Fermi 特別講演 (H会場)						
16:00	総 会 (H会場)						
17:30	林忠四郎賞受賞記念講演 (H会場)						
18:30	懇 親 会						

口頭セッション 3月26日(木)

開始時刻	A会場	B会場	C会場	D会場	E会場	F会場	G会場
	【銀河団】	【高密度星】	【星・惑星】	【恒星】	【地上観】	【飛翔観】	【太陽】
10:00	T01a	J20a	P28a	N13a	V06a	W23a	M39a
10:12	T02a	J21a	P29a	N14a	V07a	W24a	M40a
10:24	T03a	J22a	P30a	N15a	V08a	W25a	M41a
10:36	T04a	J23a	P31a	N16a	V09a	W26a	M42a
10:48	T05a	J24a	P32a	N17b - N19b	V10a	W27a	M43a
11:00	T06a	J26b - J28b	P33a	N20a	V11a	W28a	M44a
11:12	T07a	J29a	P34a	N21a	V12a	W29b - W31b	M45a
11:24	T08a	J31b - J33b	P35b, P36b, P38b	N22a	V13a	W34a	M46a
11:36	T09a	J34a	P39b - P41b	-	V14a	W35b - W37b	M47a
11:48	T10a	J35b - J37b	P42b - P44b	-	V15a	W38b, W39b	M48a
12:00	T11a	J38b	P45b	-	V16a	-	M49a
12:12	T12b	-	-	-	V17b, V20b	-	-
12:00	昼休み						
13:00	ポスター						
開始時刻	【銀河形成】	【高密度星】	【星・惑星】	【星間】	【地上観】	【飛翔観】	【銀河】
14:00	X01a	J40a	P46a	Q01a	V22a	W40a	R01a
14:12	X02a	J41a	P47a	Q02a	V23b, V25b, V26b	W41a	R02a
14:24	X03a	J42a	P48a	Q03a	V27a	W42a	R03a
14:36	X04a	J43a	P49a	Q04a	V28b - V30b	W43b - W45b	R04a
14:48	X05a	J44a	P50a	Q05a	V33b - V35b	W46b - W48b	R05a
15:00	X06a	J45a	P51a	Q06a	V38a	W49a	R06a
15:12	X07a	J46a	P52a	Q07a	V39b, V41b, V42b	W50a	R07b - R09b
15:24	X08a	J47a	P53a	Q08a	V43b - V45b	W51b - W53b	R10b - R12b
15:36	X09b - X11b	J48a	P54a	Q09b - Q11b	V46b, V47b, V50b	W54b - W56b	R13b - R15b
15:48	X12b, X13b	J49a	P55a	Q13b, Q14b	V51b, V55b, V56b	W57b	R16b, R17b
16:00	研究奨励賞受賞記念講演 (H会場)						
17:00	ALMA 特別セッション (H会場)						

口頭セッション 3月27日(金)

開始時刻	A会場	B会場	C会場	D会場	E会場	F会場	G会場
	【銀河形成】	【高密度星】	【星・惑星】	【星間】	【地上観】	【飛翔観】	【銀河】
10:00	X18a	J50a	P56a	Q16a	V58a	W58a	R23a
10:12	X19a	J51a	P57a	Q17a	V59a	W59a	R24a
10:24	X20a	J52a	P58a	Q18a	V60a	W60a	R25a
10:36	X21a	J53a	P59a	Q19a	V61a	W61a	R26a
10:48	X22a	J54a	P61a	Q20a	V62a	W62a	R27a
11:00	X23a	J55a	P62a	Q21a	V63a	W63a	R28a
11:12	X24a	J56a	P63a	Q22a	V64a	W64a	R29a
11:24	X25a	J57a	P64a	Q23a	V65a	W65a	R30a
11:36	X26a	J58a	P65a	Q24a	V66a	W66a	R31a
11:48	X27a	J59a	P66a	Q25a	V67a	W67a	R32a
12:00	-	-	-	Q26a	-	-	-
12:00	昼休み						
13:00	ポスター						
開始時刻	【銀河形成】	【高密度星】	【星・惑星】	【星間】	【地上観】	【飛翔観】	【銀河】
14:00	X28a	J60a	P67a	Q27a	V68a	W68a	R33a
14:12	X29a	J61a	P68a	Q28a	V69a	W69a	R34a
14:24	X30a	J62a	P69a	Q29a	V70a	W70a	R35a
14:36	X31a	J63a	P70a	Q30a	V71a	W71a	R36a
14:48	X32a	J64a	P71a	Q31a	V72a	W72a	R37a
15:00	X33a	J65a	-	Q32a	V73a	W73a	R38a
15:12	X34a	J66a	-	Q33a	V74a	W74a	R39a
15:24	X35a	J67a	-	Q34a	-	W75a	R40a
15:36	X36a	J68a	-	Q35a	-	W76a	R41a
15:48	X37a	-	-	Q36a	-	-	-

ポスターセッション 3月24日(火) ~ 3月27日(金)

ポスター会場 1

【BH 時空】(4)

A07b A11b A14c A15c

【高密度星】(27)

J02b J03b J04b J08b J09b
 J10b J11b J12b J13b J15b
 J16b J17b J18c J19c J25c
 J26b J27b J28b J30c J31b
 J32b J33b J35b J36b J37b
 J38b J39c

ポスター会場 2

【超新星爆発】(6)

K11b K12b K20b K21b K22b
 K25b

【太陽系】(5)

L05b L06b L07b L17b L18c

【太陽】(11)

M08b M09b M10b M11b M12b
 M13b M14b M15c M16b M17b
 M18b

【展示コーナー】

ポスター会場 3

【恒星】(7)

N10b N11b N12b N17b N18b
 N19b N23c

【星・惑星形成】(29)

P06b P07b P08b P12b P13b
 P14b P16b P17b P18b P19b
 P20c P21b P22b P23b P24b
 P25c P26c P35b P36b P37c
 P38b P39b P40b P41b P42b
 P43b P44b P45b P60c

ポスター会場 4

【星間現象】(7)

Q09b Q10b Q11b Q12c Q13b
 Q14b Q15c

【銀河】(16)

R07b R08b R09b R10b R11b
 R12b R13b R14b R15b R16b
 R17b R18c R19c R20c R21c
 R22c

【活動銀河核】(7)

S11b S12b S13b S14c S31b
 S32b S33b

【銀河団】(1)

T12b

【宇宙論】(6)

U15b U16b U21b U22b U23b
 U24c

ポスター会場 5

【地上観測機器】(38)

V17b V18c V19c V20b V21c
 V23b V24c V25b V26b V28b
 V29b V30b V31c V32c V33b
 V34b V35b V36c V37c V39b
 V40c V41b V42b V43b V44b
 V45b V46b V47b V48c V49c
 V50b V51b V52c V53c V54c
 V55b V56b V57c

ポスター会場 6

【飛翔体観測機器】(32)

W03b W04b W05b W12c W14b
 W15b W20b W21b W22c W29b
 W30b W31b W32c W33c W35b
 W36b W37b W38b W39b W43b
 W44b W45b W46b W47b W48b
 W51b W52b W53b W54b W55b
 W56b W57b

ポスター会場 7

【銀河形成】(9)

X09b X10b X11b X12b X13b
 X14c X15c X16c X17c

【天文教育・他】(21)

Y02b Y03b Y04b Y05c Y08b
 Y09b Y10c Y11b Y15b Y16b
 Y17b Y18c Y20b Y21b Y24b
 Y25b Y26b Y27c Y29b Y30b
 Y31b

【PDL】

【最新情報コーナー】

ポスター会場 8

【ジュニアセッション】

A. BH 時空

3月24日(火) 午後1・A会場			
13:00	A01r 銀河中心 Sgr A* とブラックホール時空・8分 三好 真 (国立天文台)	16:48	A13a ブラックホール撮像のためのサブミリ波スペース VLBI 計画・12分 土居明広 (宇宙航空研究開発機構)
13:08	A02a ブラックホール時空の探査と磁気圏におけるエネルギー放射・30分 富松 彰 (名古屋大学)		A14c ペルーの宇宙電波観測所報告 Ishitsuka Jose (ペルー地球物理研究所 (IGP)・アンコン観測所)
13:38	A03a The Galactic Center Activity・20分 小山勝二 (京都大学)		A15c 銀河中心ブラックホール Sgr A* を解像する南半球サブミリ波 VLBI ネット: ほらいずん望遠鏡構想 三好 真 (国立天文台)
13:58	A04a Sgr A* の近赤外線偏光観測・12分 西山正吾 (京都大学)	3月25日(水) 午前・A会場	
14:10	A05a Sgr A* の電波 activity・20分 坪井昌人 (宇宙航空研究開発機構)	10:00	A16a ブラックホール近傍での相対論効果の検証: 鉄輝線放射・12分 根来 均 (日本大学)
14:30	A06r Resolving the shadow of Sagittarius A*・25分 Shen Zhiqiang (Shanghai Astronomical Observatory, Chinese Academy of Sciences)	10:12	A17a ブラックホール近傍の回転円盤から放出された輝線モデル・20分 小島康史 (広島大学)
14:55	A07b ミリ波における Sgr A* の時間変動・3分 宮崎敦史 (国立天文台)	10:32	A18a ブラックホール連星の鉄輝線: 真に広がっているか?・20分 牧島一夫 (東京大学/理化学研究所)
14:58	A08a 銀河系中心方向の重力レンズ現象・12分 大西浩次 (長野高専)	10:52	A19a MCG 6-30-15 の X 線スペクトル変動の解釈・15分 海老沢 研 (宇宙航空研究開発機構)
3月24日(火) 午後2・A会場		11:07	A20a X 線放射スペクトルの示す大質量ブラックホール近傍の物理・20分 國枝秀世 (名古屋大学)
16:00	A09a ブラックホールシャドウと相対論的天体の見え方・20分 福江 純 (大阪教育大学)	11:27	A21a Centaurus-A 中心核のミリpcスケール変動と最高エネルギー宇宙線・12分 堀内真司 (Canberra Deep Space Communication Complex (CDSCC))
16:20	A10a 銀河中心 Sgr A* 時間変動のイメージング観測シミュレーション・12分 高橋芳太 (理化学研究所)	11:39	A22a ブラックホール磁気圏における MHD 近似の適用限界・12分 小出真路 (熊本大学)
16:32	A11b ブラックホールは見えるのか? ~ 暁霧の地平線~・4分 加藤成晃 (宇宙航空研究開発機構)	11:51	A23a 円盤からのエネルギースペクトルにおける super-radiance の効果・12分 小林太一 (名古屋大学)
16:36	A12a ASTE を用いた Sgr A* のサブミリ波 VLBI 観測計画・12分 本間希樹 (国立天文台)		

J. 高密度星

3月25日(水) 午後・A会場		3月25日(水) 午前・B会場	
14:00	A24a 降着円盤の振動— QPOs と中心天体の質量・スピン・20分 加藤正二 (京都大学 OB)	11:12	J01a 2008年6月に起こった矮新星 V466 And の superoutburst における可視光観測 大島誠人 (京都大学)
14:20	A25a カーブラックホール降着流中での SASI・12分 長倉洋樹 (早稲田大学)	11:24	J02b VY Aqr の 2008 年の superoutburst における可視光測光観測 大島誠人 (京都大学)
14:32	A26a 準周期振動に関する降着円盤の磁気流体数値実験・12分 町田真美 (国立天文台)	11:24	J03b V844 Her の 2008 年の superoutburst における可視光測光観測 大島誠人 (京都大学)
14:44	A27a 低光度ブラックホール降着円盤の大局的 3次元磁気流体数値実験・12分 松元亮治 (千葉大学)	11:24	J04b period gap 内の軌道周期を持つ激変星の可視光測光観測 大島誠人 (京都大学)
14:56	A28a 「ブラックホール時空」観測に向けて・4分 高橋真聡 (愛知教育大学)	11:36	J05a かなた望遠鏡による WZ Sge 型矮新星 OT J074727.6+065050 の可視—近赤外線測光観測 植村 誠 (広島大学)
		11:48	J06a WZ Sge 型矮新星 OT J023839.1+355648 の測光観測 前原裕之 (京都大学)
		3月25日(水) 午後・B会場	
		14:00	J07a WZ Sge 型矮新星 V455 And の可視近赤外同時撮像観測 松井理紗子 (広島大学)
		14:12	J08b 爆発早期にダスト形成を起こした新星 V5579 Sgr 新井 彰 (広島大学)
		14:12	J09b 矮新星 KP Cas の 2008 年 superoutburst 期における CCD 測光観測 今村和義 (岡山理科大学)
		14:12	J10b すざく衛星による古典新星 V2491 Cygni の即応観測 武井 大 (立教大学)

		3月26日(木) 午前・B会場	
14:24	J11b	X線衛星すざくによる激変星 XSS J12270-4859 の観測 齊藤 慧 (東京大学/宇宙航空研究開発機構)	10:00 J20a
			「すざく」が捉えた Very High 状態 : GX 339-4 の 広帯域 X 線観測 山田真也 (東京大学)
14:24	J12b	「すざく」による軟ガンマ線リピーター SGR 0501+4516 の ToO 観測 (2) 中川友進 (理化学研究所)	10:12 J21a
			「すばる」による SS433 伴星スペクトルの観測とコンパクト星の同定 久保田香織 (京都大学)
14:24	J13b	RXTE 衛星によるマグネター 1E2259+586 の長期観測の解析 長崎健太 (立教大学)	10:24 J22a
			「ソフト状態」にある GRS 1915+105 のチャンドラ・RXTE 同時観測 上田佳宏 (京都大学)
14:36	J14a	「すざく」による軟ガンマ線リピーター SGR 0501+4516 の ToO 観測 (1) 榎戸輝揚 (東京大学)	10:36 J23a
			局所銀河群中の IC10 X-1 はカーブラックホールであるか? 馬場亮輔 (東京理科大学)
14:48	J15b	X線天文衛星「すざく」による低質量 X線連星 XB1323-619 の観測 その2 広津敏尚 (東京工業大学/宇宙航空研究開発機構)	10:48 J24a
			Probing the Peculiar Behavior of GRS 1915+105 at Super-Eddington Luminosity Kiki Vierdayanti (京都大学)
14:48	J16b	パルサー磁気圏における Y-point 形成のシミュレーション 海崎光宏 (山形大学)	J25c
			「すざく」による低質量 X 線連星のエディントン限界付近での物理状態の研究 高橋弘充 (広島大学)
14:48	J17b	粒子シミュレーションによるパルサーポーラーキャップの粒子加速機構の研究 結城伸哉 (山形大学)	11:00 J26b
			すざく衛星搭載 WAM によるブラックホール連星の軟 γ 線長期地食観測 (2) 吉良知恵 (広島大学)
	J18c	高速回転している相対論的な中性子星上の点からの光度曲線 沼田和俊 (東北大学)	11:00 J27b
			大光度ブラックホール連星系の可視光光度曲線 渡會兼也 (金沢大学附属高等学校)
	J19c	クォーク・ハドロン混合相を考慮した高密度星の Cooling Curve 野田常雄 (九州大学)	11:00 J28b
			アウトフローを伴う超臨界降着流の X 線スペクトル計算 川島朋尚 (千葉大学)
			11:12 J29a
			質量降着を伴う種族 III の巨大質量星の進化とブラックホールの形成 大久保琢也 (東京大学)
			J30c
			種族 III の巨大質量星の進化の最終段階 大久保琢也 (東京大学)

			3月26日(木) 午後・B会場
11:24	J31b	大局的輻射磁気流体計算によるブラックホール降着・噴出流の構造の解明 大須賀 健 (国立天文台)	14:00 J40a Cosmic-ray positrons from gamma-ray bursts 井岡邦仁 (高エネルギー加速器研究機構)
11:24	J32b	超臨界降着流の新モデル：光子捕捉とアウトフローの相克 竹内 駿 (京都大学)	14:12 J41a 降着円盤による非熱的ニュートリノ生成とガンマ線バースト中心エンジン 諏訪雄大 (東京大学)
11:24	J33b	降着円盤磁気流体シミュレータの開発：磁気流体ジェット 小川崇之 (千葉大学)	14:24 J42a コラプサーからのガンマ線バーストジェットのエネルギー角度分布 水田 晃 (千葉大学)
11:36	J34a	相対論磁気リコネクションの2流体シミュレーション 銭谷誠司 (NASA Goddard Space Flight Center)	14:36 J43a 多数枚シェルの衝突を考慮した GRB の GeV 領域の放射 青井順一 (京都大学)
11:48	J35b	相対論磁気リコネクションにおける Weibel 不安定の役割 銭谷誠司 (NASA Goddard Space Flight Center)	14:48 J44a GRB080916C の FERMI 衛星による観測 浅野勝晃 (東京工業大学)
11:48	J36b	相対論的平行平板流における相対論的変動エディントン因子 II 福江 純 (大阪教育大学)	15:00 J45a Observation of GRB 081024B with Fermi Gamma-Ray Space Telescope 花畑義隆 (広島大学)
11:48	J37b	磁気回転不安定性による円盤風駆動 鈴木 建 (東京大学)	15:12 J46a Pulse analysis of Swift bright-long bursts with known redshift Nicolas Vasquez (東京工業大学)
12:00	J38b	ガンマ線バーストの低エネルギースペクトル 浅野勝晃 (東京工業大学)	15:24 J47a HETE-2 によるガンマ線バーストのラグ光度関係の検証 有元 誠 (東京工業大学)
	J39c	GRB 041006 早期可視光残光における増光 園田絵里 (宮崎大学)	15:36 J48a 「すざく」衛星搭載 WAM 検出器で観測した、ガンマ線バーストの高エネルギー放射 恩田香織 (埼玉大学)
			15:48 J49a 全天 X 線監視装置 MAXI を用いたガンマ線バーストの検出と速報 鈴木素子 (宇宙航空研究開発機構)

3月27日(金) 午前・B会場		3月27日(金) 午後・B会場	
10:00	J50a 「すざく」衛星によるX線連星 4U1626-67のサイクロトロン共鳴吸収構造の観測 岩切 渉 (埼玉大学)	14:00	J60a パルサー起源の GeV 陽電子超過について 川中宣太 (高エネルギー加速器研究機構)
10:12	J51a X線連星パルサー 4U 0115+63 の 1999年/2004年アウトバースト時のサイクロトロン共鳴線の振る舞い 山本堂之(日本大学/理化学研究所)	14:12	J61a TeVガンマ線連星 B1259-63/SS 2883 からの高エネルギー放射モデル I: パルサーとBe星ガス円盤の潮汐相互作用シミュレーション 岡崎敦男 (北海学園大学)
10:24	J52a X線パルサーにおけるサイクロトロン線エネルギーの特徴 西村 治 (長野高専)	14:24	J62a TeVガンマ線連星 B1259-63/SS 2883 からの高エネルギー放射モデル II: 潮汐相互作用を考慮した場合の非熱的放射 内藤統也 (山梨学院大学)
10:36	J53a Newton および「すざく」観測から得られた中性子星連星 4U 1700+24 の静穏状態における降着の描像 永江 修 (広島大学)	14:36	J63a X線連星の降着円盤からの陽電子アウトフローの形成 小尾善男 (東京工業大学)
10:48	J54a 大質量X線連星 4U1700-37 の「すざく」による広帯域X線解析(II) 古関 優 (総合研究大学院大学/宇宙科学研究本部)	14:48	J64a Excitation of Trapped Oscillations in Accretion Disks around Black Holes Finny Oktariani (Hokkaido University)
11:00	J55a すざくによる HESS J0632+057 の観測 国分紀秀 (宇宙航空研究開発機構)	15:00	J65a Spectral energy distribution of super-Eddington flows Dominikus Heinzeller (京都大学)
11:12	J56a Fermi ガンマ線宇宙望遠鏡によって検出されたパルサー 河合誠之 (東京工業大学)	15:12	J66a 磁気圧優勢円盤の二温度遷音速解とその明るいハード状態への適用 小田 寛 (千葉大学)
11:24	J57a MAXI によるマグネターのパルス周期モニター 森井幹雄 (東京工業大学)	15:24	J67a 相対論的磁気リコネクションにおける超相対論的アウトフローの可能性: 粒子シミュレーションによる検証 高橋博之 (千葉大学)
11:36	J58a MAXI で切り拓くマグネター研究~全天マップ・活動モニタリング~ 中川友進 (理化学研究所)	15:36	J68a 相対論的流体力学における散逸の扱いの実用化に向けて 高本 亮 (京都大学)
11:48	J59a 相対論的 MHD シミュレーションによるマグネター巨大フレアの研究(III) 松本 仁 (京都大学)		

K. 超新星爆発

3月24日(火) 午後1・B会場		3月24日(火) 午後2・B会場	
13:00	K01a すばるによる銀河系内超新星からの Light Echo の可視分光観測(1): CasA 白田知史(国立天文台)	16:00	K13a 重力崩壊型超新星における定在衝撃波へのMHD ジェットの効果 三上隼人(千葉大学)
13:12	K02a すばるによる銀河系内超新星からの Light Echo の可視分光観測(2): Tycho 野本憲一(東京大学)	16:12	K14a 非対称な重力崩壊型超新星における重元素合成 西村信哉(九州大学)
13:24	K03a Cas A 超新星残骸中のダストの進化と熱放射 野沢貴也(東京大学)	16:24	K15a 大質量星の磁気回転爆発による元素合成と太陽系組成との比較 猿渡元彬(九州大学)
13:36	K04a SN 2008S の親星周縁のダストの組成とその質量 設楽賢司(北海道大学)	16:36	K16a コラプサーモデルによる大質量星の磁気駆動ジェット状爆発と爆発的要素合成 小野勝臣(九州大学)
13:48	K05a Ia型超新星の最外層の元素組成と白色矮星でのヘリウム・フラッシュ 神谷保臣(東京大学)	16:48	K17a EMP 星 r-process 元素の特徴を説明する Type II supernova 連星と化学進化モデル 山田志真子(北海道大学)
14:00	K06a 可視分光による Ia 型超新星の断層診断 田中雅臣(東京大学)	3月25日(水) 午前・B会場	
14:12	K07a 多次元爆燃 - 爆轟 Ia 型超新星爆発における元素合成 前田啓一 (東京大学数物連携宇宙研究機構)	10:00	K18a 超新星の光度曲線から爆発モデルを決定する逆問題の定式化 岩本弘一(日本大学)
14:24	K08a XMM-Newton 衛星による超新星残骸 W28 北東部の観測 中村良子 (宇宙科学研究本部/東京工業大学)	10:12	K19a Subaru/XMM-Newton Deep Field における Ia 型超新星の発生頻度 井原 隆(東京大学)
14:36	K09a 「すざく」による大マゼラン星雲内超新星残骸 N103B の観測 山口弘悦(理化学研究所)	10:24	K20b SDSS 超新星サーベイで発見された Ia 型超新星の多様性 III 小西功記(東京大学)
14:48	K10a 超新星残骸白鳥座ループの爆発噴出物の非対称分布 内田裕之(大阪大学)	10:24	K21b Ia 型超新星 SN 2008fv の可視近赤外観測: 星周物質との相互作用の可能性 山中雅之(広島大学)
15:00	K11b 超新星残骸白鳥座ループ南東のシェルにおけるプラズマ構造 小杉寛子(大阪大学)	10:24	K22b Ic 型超新星 SN 2007gr の可視近赤外観測 山中雅之(広島大学)
15:00	K12b 「すざく」による超新星残骸の稀少元素探査~ケプラー超新星残骸~ 早藤麻美(東京理科大学/理化学研究所)	10:36	K23a 超新星ニュートリノにおける RSF Conversion の電子モル分率依存性 吉田 敬(国立天文台)
		10:48	K24a The Diffuse Supernova Neutrino Background is Detectable in Super-Kamiokande 堀内俊作(東京大学)
		11:00	K25b 超新星背景ニュートリノ(Supernova Relic Neutrino) 捕獲率予測の精密化 鈴木重太朗(総合研究大学院大学/国立天文台)

L. 太陽系

3月24日(火) 午後1・C会場		3月24日(火) 午後2・C会場	
13:00	L01a 微惑星円盤内での連星形成 台坂淳子 (国立天文台)	16:00	L13a ほうおう座流星群における2008年、 2014年、2019年の予報研究 佐藤幹哉 (国立天文台)
13:12	L02a 周惑星円盤での衛星系形成とその多 様性の起源 佐々木貴教 (東京工業大学)	16:12	L14a 地球衝突天体の軌道解析システムの 開発 吉川 真 (宇宙航空研究開発機構)
13:24	L03a 月探査衛星かぐやで観測された地形と 重力 野田寛大 (国立天文台)	16:24	L15a 自転運動の正準要素 福島登志夫 (国立天文台)
13:36	L04a Planet Spectra Analysis Lundock Ramsey Guy (東北大学)	16:36	L16a 暦象年表改定版の問題点 相馬 充 (国立天文台)
13:48	L05b 宇宙塵中の気泡の生成と消滅 土居政雄 (東京工業大学)	16:48	L17b すざく衛星による、2005年9月の太 陽活動に起因する太陽風と地球大気 の荷電交換反応の観測 松本浩典 (京都大学)
13:48	L06b 地球照の偏光分光観測 高橋 隼 (神戸大学)		L18c 主要流星群による流星痕の、出現高 度の比較 比嘉義裕 (日本流星研究会)
13:48	L07b NANTEN2 望遠鏡による惑星大気定期 観測 森部那由多 (名古屋大学)		
14:00	L08a 高軌道傾斜角の微小メインベルト小惑 星を対象とした広域サーベイ観測 寺居 剛 (神戸大学)		
14:12	L09a あかり衛星による準惑星及び太陽系 外縁部小天体の遠赤外線測光観測 関口朋彦 (北海道教育大学)		
14:24	L10a 2006年回帰時におけるシュヴァスマ ン-ヴァハマン第3彗星B核の分裂 現象 石黒正晃 (国立天文台)		
14:36	L11a 17P/Holmes の特異な偏光波長依存 性を再現する塵モデル構築の試み 古荘玲子 (国立天文台)		
14:48	L12a 2008年のほうおう座流星群の活動 渡部潤一 (国立天文台)		

M. 太陽

3月24日(火) 午後1・G会場		14:36	M12b 国立天文台乗鞍コロナ観測所での NOAA11022 などの偏光観測 野澤 恵 (茨城大学)
13:00	M01a 平らな電波スペクトルをもつ太陽フレアとその成因 中島 弘 (国立天文台)	14:36	M13b 太陽極域 kG 強磁場の生成消滅と流れ場 常田佐久 (国立天文台)
13:12	M02a 「ひので」EIS によって観測された、大フレア直前のループエクспанションとブルーシフト現象 浅井 歩 (国立天文台)	14:48	M14b He I 10830 Å による黒点半暗部彩層の速度・磁場構造の解析 勝川行雄 (国立天文台)
13:24	M03a 太陽フレアにおけるループトップ付近に観測される硬 X 線源とマイクロ波源の高度に関する統計的研究 増田 智 (名古屋大学)		M15c ひので / 可視光望遠鏡を用いた粒状斑の検出及びサイズ / 光度分布の研究 深町勝幸 (日出町立南端中学校 / 大分大学)
13:36	M04a 白色光フレアにおける硬 X 線放射と粒子加速 渡邊恭子 (宇宙航空研究開発機構)	14:48	M16b 対流崩壊で形成される光球磁束管の 3次元 MHD シミュレーション 2 高橋邦生 (国立天文台)
13:48	M05a 太陽フレアにおける断熱的粒子加速による粒子分布関数変化 箕島 敬 (名古屋大学)	14:48	M17b 「ひので」X 線望遠鏡の最新キャリブレーション結果 (2009 年春版) 成影典之 (宇宙航空研究開発機構)
14:00	M06a プラズモイドに捕捉された粒子のファーストショックでのフェルミ加速 西塚直人 (京都大学)	15:00	M18b ひので衛星データを利用した査読論文の出版動向 下条圭美 (国立天文台)
14:12	M07a 有限振幅拡散擾乱より発展する磁気リコネクション: 磁気拡散とガイド磁場に対する依存性 横山央明 (東京大学)	3月24日(火) 午後2・G会場	
14:24	M08b 「すざく」衛星搭載 WAM 検出器が観測した太陽フレアの硬 X 線の時間変動 守上浩市 (埼玉大学)	16:00	M19a 弱電離プラズマにおける磁気リコネクション 磯部洋明 (京都大学)
14:24	M09b 電波および軟 X 線観測に基づくコロナ中での微小粒子加速現象の研究 岩井一正 (東北大学)	16:12	M20a 質量の違う元素からの輝線 今田晋亮 (国立天文台)
14:24	M10b 磁束量保存と磁気雲の軸方向長さについて 山本哲也 (名古屋大学)	16:24	M21a 「ひので」衛星による、太陽光球で発生するアルベン波とその反射波の検出 藤村大介 (国立天文台 / 東京大学)
14:36	M11b ひので・EIS を用いた X 線輝点の時間変化解析 市川幸平 (京都大学)	16:36	M22a コロナループにおけるドップラー速度および極紫外線強度の振動現象についての統計解析 北川直優 (東京大学)
		16:48	M23a 太陽黒点上空で見られる penumbral microjet の MHD モデル 真柄哲也 (国立天文台)

3月25日(水) 午前・G会場		14:36	M37a 局所的日震学による浮上磁場領域彩層中での下降流の検出 長島 薫 (総合研究大学院大学)
10:00	M24a 黒点暗部における、上昇流を伴う輝点の侵入 渡邊皓子 (京都大学)	14:48	M38a 彩層ラインを用いた局所的日震学における伝播時間について 関井 隆 (国立天文台)
10:12	M25a エバーシェッド流の起源について 一本 潔 (京都大学)	3月26日(木) 午前・G会場	
10:24	M26a SIR で探るトランジェント水平磁場の3次元構造と磁場浮上 石川遼子 (東京大学 / 国立天文台)	10:00	M39a プロミネンス形成に関連する螺旋浮上磁場とその性質 岡本文典 (国立天文台)
10:36	M27a 太陽静穏領域における小規模磁気キャンセレーション 久保雅仁 (High Altitude Observatory)	10:12	M40a リム・スピキュールのライン・プロファイル解析 小路真木子 (京都経済短期大学)
10:48	M28a 光球磁場キャンセレーション領域におけるベクトル磁場と Doppler 速度変動の解析 II 飯田佑輔 (東京大学)	10:24	M41a 飛驒 - ひので共同観測による浮上磁場領域の Ca 線スペクトル解析 II 大辻賢一 (京都大学)
11:00	M29a 静穏領域の bipolar patch の方位角分布 上田航平 (東京大学)	10:36	M42a 2007 年飛驒 - ひので協同観測より：彩層ジェットの分光学的特性 II - 超粒状斑セル内彩層上層でのスパイク状ブライトニング現象 - 上野 悟 (京都大学)
11:12	M30a 太陽静穏領域での彩層ネットワーク構造と X 線強度との関係について II 石井貴子 (京都大学)	10:48	M43a 飛驒 - ひので共同観測分光データを用いた CaII アネモネジェットの研究 2: 光球面ベクトル磁場成分の発展との相関 森田 諭 (京都大学)
11:24	M31a 軟 X 線で見える静穏領域における突発的エネルギー解放イベントの発生頻度 羽田裕子 (日本大学)	11:00	M44a 「ひので」衛星による光球温度分布の不均一性の発見 塩津雄人 (国立天文台 / 大阪教育大学)
11:36	M32a ナノフレア仮説における接線不連続の問題点 柴崎清登 (国立天文台)	11:12	M45a 極域コロナルホール・静穏コロナ・赤道域コロナホールの光球磁場構造とその中長期変動 伊藤大晃 (名古屋大学)
11:48	M33a コロナ磁気ループ加熱機構の輻射輸送計算による検証 加藤成晃 (宇宙航空研究開発機構)	11:24	M46a 極域コロナホール内のコロナ構造・活動と磁場分布 下条圭美 (国立天文台)
3月25日(水) 午後・G会場		11:36	M47a 極域太陽 X 線ジェットの統計的研究 佐古伸治 (東海大学)
14:00	M34a コロナ・彩層活動と光球磁場：ループ状マイクロフレア足元の磁場・電流 清水敏文 (宇宙航空研究開発機構)	11:48	M48a 観測ロケットを用いた Ly α 線での偏光観測実験 成影典之 (宇宙航空研究開発機構)
14:12	M35a ひので EIS により発見されたコロナ下部での微小エネルギー解放 原 弘久 (国立天文台)	12:00	M49a 太陽観測衛星 SOLAR-C 計画 II 渡邊鉄哉 (国立天文台)
14:24	M36a 「ひので」XRT でみるコロナの温度構造・磁場構造の発展 坂尾太郎 (宇宙航空研究開発機構)		

N. 恒星

3月25日(水) 午前・D会場		3月26日(木) 午前・D会場	
11:00	N01a 宇宙初期の超新星爆発: [Fe/H] < -3.5の金属欠乏星からの制限 富永 望 (国立天文台)	10:00	N13a メートル波長帯で明るい電波源のGMRT:240MHzでの観測結果について 小池一隆 (総合研究大学院大学)
11:12	N02a 炭素過剰金属欠乏星の炭素の起源とベリリウム組成 伊藤紘子 (総合研究大学院大学)	10:12	N14a 若い大質量散開星団に付随する赤色超巨星からの一酸化珪素レーザー輝線 出口修至 (国立天文台)
11:24	N03a 矮小銀河の超低金属星の化学組成 青木和光 (国立天文台)	10:24	N15a VERAと鹿児島1mによるAGB星の物理量とその変化量の推定 松井 真 (鹿児島大学)
11:36	N04a 超金属欠乏星でのフッ素組成過多の起源について 西村高德 (国立天文台)	10:36	N16a VLBIで探る系内ミラ型変光星の周期光度関係: VLBAでの周期500日台の観測結果 倉山智春 (韓国天文研究院)
11:48	N05a 球状星団M15の中性子捕獲元素 本田敏志 (ぐんま天文台)	10:48	N17b VLBIで探る系内ミラ型変光星の周期光度関係: VERAによる位置天文観測の結果 中川亜紀治 (鹿児島大学)
12:00	N06a 銀河系ハロー惑星状星雲BoBn1の元素組成解析 大塚雅昭 (STScI)	10:48	N18b 「宇宙の噴水」を含む後漸近巨星枝星水レーザー源のVERAアストロメトリ 今井 裕 (鹿児島大学)
3月25日(水) 午後・D会場		10:48	N19b 2007-2008かんむり座R減光期のナトリウムD線スペクトル 松田健太郎 (西はりま天文台)
14:00	N07a 近星点を迎える長周期Wolf-Rayet連星系WR140のSuzaku衛星によるX線観測 菅原泰晴 (中央大学)	11:00	N20a roAp星プロフィール変動の数値解析 野村隆司 (東京大学)
14:12	N08a 「あかり」による褐色矮星の近赤外線分光観測II. 基礎物理量の決定及び非平衡モデルの観測的検証 辻 隆 (東京大学)	11:12	N21a 特異な食連星ぎょしゃ座イプシロンの食外期における高分散分光観測 定金晃三 (大阪教育大学)
14:24	N09a 「あかり」遠赤外線全天サーベイカタログ初版の完成 山村一誠 (宇宙航空研究開発機構)	11:24	N22a 惑星を持つ星におけるLi組成の振る舞い 比田井昌英 (東海大学)
14:36	N10b 「あかり」遠赤外線全天サーベイカタログとIRASカタログの比較 巻内慎一郎 (宇宙航空研究開発機構)	N23c 太陽に非常に類似する恒星の分光解析 竹田洋一 (国立天文台)	
14:36	N11b 「あかり」衛星の全天サーベイカタログを用いた天体の分類 板 由房 (国立天文台)		
14:36	N12b 歴史的文献に於ける恒星の位置精度と変動天体の検出 藤原智子 (九州大学)		

P. 星・惑星形成

3月25日(水) 午前・C会場		3月25日(水) 午後・C会場	
10:00	P01a 大質量星形成領域 S106 における超低質量天体の近赤外 L' バンド測光観測 田中宗親 (神戸大学)	11:48	P13b あかり衛星を用いた大マゼラン雲内の若い天体の周囲に存在する氷の近赤外分光観測 下西 隆 (東京大学)
10:12	P02a 偏光で観るオリオン星雲の3次元構造 栗田光樹夫 (名古屋大学)	11:48	P14b 固有運動による散開星団に属する天体の探査 橋口敏郎 (神戸大学)
10:24	P03a SIRPOL による広視野赤外線偏光観測 - その 2-; 大質量成形星領域 NGC6334 における磁場のねじれ 橋本 淳 (総合研究大学院大学)	3月25日(水) 午後・C会場	
10:36	P04a IRSF/SIRPOL による大質量星形成領域 GGD27 の近赤外線偏光観測 齋藤弘雄 (国立天文台)	14:00	P15a 褐色矮星マイクロレンズイベント候補の解析 三宅範幸 (名古屋大学)
10:48	P05a オリオン BN/KL 領域の近赤外円偏光観測 福江 翼 (京都大学)	14:12	P16b へび座 / へびつかい座星形成領域における伴星型原始褐色矮星の探査 城野ちあき (神戸大学)
11:00	P06b 明るい T Tauri 型星方向の前方星間偏光の推定 秋田谷 洋 (国立天文台)	14:12	P17b 全天の測光アーカイブデータを用いた褐色矮星探査 II 葉山優希子 (神戸大学)
11:00	P07b ほ座分子雲に付随するブライトリム分子雲 BRC58 の近赤外線撮像観測 田中温子 (神戸大学)	14:12	P18b 大質量星形成期におけるメタノール・水メーザのトレース進化段階の調査 杉山孝一郎 (山口大学)
11:00	P08b 原始惑星系ダスト円盤の ALMA サーベイ観測モードの検討 百瀬宗武 (茨城大学)	14:24	P19b VERA による H ₂ O メーザ源 W28A2 & G353.2+0 の同時位相補償観測 元木業人 (北海道大学)
11:12	P09a すばる望遠鏡戦略枠観測「SEEDS」による星形成領域の円盤・惑星探査 工藤智幸 (国立天文台)		P20c VERA による星形成領域 ON2 の位置天文観測 安藤和真 (鹿児島大学)
11:24	P10a Herbig Ae 型星 HD163296 の星周ガス円盤 CO 観測: 円盤温度構造の解明 秋山永治 (茨城大学)	14:24	P21b [FeII] 輝線による原始星アウトフローの探査 中岡正奈 (神戸大学)
11:36	P11a AKARI 衛星による星形成領域の赤外線撮像観測: 1 佐藤八重子 (総合研究大学院大学)	14:24	P22b 磁気乱流を持った分子雲コアの収縮とアウトフローの放出 松本倫明 (法政大学)
11:48	P12b 赤外線天文衛星「あかり」による原始惑星系円盤の氷観測 鹿室 大 (神戸大学)	14:36	P23b 磁場が卓越した分子雲において乱流がコア形成を促進する 工藤哲洋 (国立天文台)

14:36	P24b 双極分子流の化学モデル II. 円盤物理量の影響 野村英子 (京都大学)	11:24	P35b 美星天文台における系外惑星 TrES-3b のトランジットの測光観測 大島 修 (岡山県立水島工業高校)
	P25c IC1396 領域の大規模 T タウリ型星探査 仲野 誠 (大分大学)	11:24	P36b 学校天文台を用いた系外惑星のトランジット観測 松本直記 (慶應義塾高校)
	P26c IC1396 のブライトリム分子雲における変光天体のモニタリング観測 上田智也 (岡山理科大学)		P37c 船穂観測所における TrES-3 の TTV 測光観測 赤澤秀彦 (倉敷市立川辺小学校)
14:48	P27a 光結合 VLBI "OCTAVE" による星形成領域の非熱的電波源観測 廣田朋也 (国立天文台)	11:24	P38b 非晶質シリケートから結晶化させたエンスタタイトの赤外線スペクトル 茅原弘毅 (大阪大学)
3月26日(木) 午前・C会場			
10:00	P28a Protocluster に付随する高密度クランブ観測 樋口あや(東京工業大学/国立天文台)	11:36	P39b ドップラーシフト法による連星系を対象とした系外惑星探査 加藤則行 (神戸大学)
10:12	P29a 星形成領域 L1551 における星間乱流: 乱流相似則の再評価 吉田淳志 (東京工業大学)	11:36	P40b SEEDS : 散開星団、Moving group のターゲット選定 松尾太郎 (JPL)
10:24	P30a 近傍星形成領域 Cha I North の分子輝線観測と星形成 早川貴敬 (名古屋大学)	11:36	P41b Determine of masses and periods of exoplanets at long orbits by Radial Velocity, Astrometry and Direct Imaging 松尾太郎 (JPL)
10:36	P31a 大質量「class 0」候補天体 NGC2264MMS3 の高分解能ミリ波観測 猿渡 修 (東京大学)	11:48	P42b プレアデス星団に存在する原始惑星の探査 伊藤洋一 (神戸大学)
10:48	P32a Discovery of the Second Warm-Carbon-Chain-Chemistry Source, IRAS15398-3359 in Lupus 坂井南美 (東京大学)	11:48	P43b CIAO による プレアアウトバースト FU Ori 天体 V1331 Cyg の直接撮像 北村美佐絵 (東北大学)
11:00	P33a 大質量星形成における「重し効果」の検証: 不安定後の降着流の剥ぎ取り 田中 圭 (東京工業大学)	11:48	P44b 暴走・寡占成長期を経た惑星のスピン獲得 松倉大士 (東京工業大学)
11:12	P34a 日本トランジット観測ネットワークによる Transit Timing Variation の探索 成田憲保 (国立天文台)	12:00	P45b 海惑星大気構造-放射平衡大気存在条件- 黒川宏之 (東京工業大学)

3月26日(木) 午後・C会場		3月27日(金) 午前・C会場	
14:00	P46a 大質量原始星の進化 : Effects of Accretion Geometry 細川隆史 (国立天文台)	10:00	P56a 赤外吸収におけるフォルステライト微粒子の形状及び凝集の影響 今井悠太 (大阪大学)
14:12	P47a 星形成・星間現象のための輻射流体シミュレーションコードの開発 富田賢吾 (総合研究大学院大学 / 国立天文台)	10:12	P57a MOA-I データベースを用いた太陽系外惑星の探索 古澤 圭 (名古屋大学)
14:24	P48a 周連星円盤からのガス降着 : 渦状衝撃波の振動と降着率の時間変動 花輪知幸 (千葉大学)	10:24	P58a MOA-I データを用いたトランジット系外惑星の探索 福井暁彦 (名古屋大学)
14:36	P49a 低質量分子雲コア中での褐色矮星の形成可能性 町田正博 (京都大学)	10:36	P59a MOA-II による重力マイクロレンズを用いた低質量天体探索 神谷浩紀 (名古屋大学)
14:48	P50a 星団形成クランプ内の分子雲コアの物理的性質について 中村文隆 (新潟大学)		P60c MOA-II による重力マイクロレンズ法を用いた系外惑星探索 保坂 俊 (名古屋大学)
15:00	P51a 微惑星衝撃波による珪酸塩微結晶の形成 : 急冷ガスからの直接凝縮 三浦 均 (東北大学)	10:48	P61a 重力マイクロレンズによる系外惑星の存在確率の見積もり 永治舞衣子 (名古屋大学)
15:12	P52a G 型巨星における惑星系の日韓共同探査.V 大宮正士 (東海大学)	11:00	P62a 惑星マイクロレンズイベント OGLE-2007-BLG-368 住 貴宏 (名古屋大学)
15:24	P53a ロンター効果による視線速度変動の摂動公式に対する精度検証 平野照幸 (東京大学)	11:12	P63a 原始惑星系円盤表層のスノーラインに対する photosputtering の影響 岡明 憲 (東京工業大学)
15:36	P54a Subaru Strategic Exploration of Exoplanets and Disks with HiCIAO/AO188 (SEEDS): Targets and status report 田村元秀 (国立天文台)	11:24	P64a 密度進化を考慮したダストアグリゲイトの合体成長シミュレーション 奥住 聡 (京都大学)
15:48	P55a SEEDS : 散開星団、Moving group における惑星検出確率の導出 山本広大 (名古屋大学)	11:36	P65a 氷ダストアグリゲイトの昇華による微惑星形成 齋藤悦子 (名古屋大学)
		11:48	P66a 原始惑星系円盤の層流ガス中での重力不安定性による微惑星形成の N 体シミュレーション 道越秀吾 (国立天文台)

Q. 星間現象

3月27日(金) 午後・C会場		3月26日(木) 午後・D会場	
14:00	P67a 大粒子数を扱える惑星形成過程向けハイブリッドN体シミュレーションコードの開発 押野翔一(総合研究大学院大学)	14:00	Q01a NANTEN2: サブミリ波観測の進捗状況 山本宏昭(名古屋大学)
14:12	P68a 粘性円盤中における原始惑星・円盤相互作用と、I型惑星移動への示唆 武藤恭之(京都大学)	14:12	Q02a 高エネルギー天体が形成した分子雲ジェットの発見 福井康雄(名古屋大学)
14:24	P69a 木星型惑星の形成過程におけるダストオパシティーの計算 敷田文吾(早稲田大学)	14:24	Q03a N159 大規模星団形成領域における分子ガスの性質 大西利和(名古屋大学)
14:36	P70a 地球型惑星の反射光の時間変動とバイオマーカー 藤井友香(東京大学)	14:36	Q04a NANTEN 2による大マゼラン雲内巨大分子雲複合体 - アーク領域の ¹² CO(2-1)観測 河村晶子(名古屋大学)
14:48	P71a 階層三体系の崩壊過程 齋藤正也(統計数理研究所)	14:48	Q05a NANTEN 2 望遠鏡による大星団Westerlund 2 と HII 領域 RCW49 方向にある分子雲の 12CO(J=2-1) 観測 大濱晶生(名古屋大学)
		15:00	Q06a なんてん銀河面 CO データを用いた、銀河系中心部銀経正方向における磁気浮上ループの探査 鳥居和史(名古屋大学)
		15:12	Q07a 銀河系中心方向の磁気浮上ループ - ループトップヘリカル構造の詳細解析 - 工藤奈都子(名古屋大学)
		15:24	Q08a AzTEC on ASTE: 1.1mm Observations toward Molecular Clouds in the Small Magellanic Cloud 竹腰達哉(北海道大学)
		15:36	Q09b ASTE/MOPRA 電波望遠鏡による SNR RCW86 周辺物質の探査 横江悠子(東海大学)
		15:36	Q10b カシオペア A 超新星残骸から観測された keV と TeV の相関 前田良知(宇宙航空研究開発機構)
		15:36	Q11b XMM-Newton 衛星による Cygnus superbubble の軟 X 線観測 戸塚晃太(中央大学)
			Q12c 水氷表面での水素分子の形成と脱離 山内貴志(九州工業大学)

15:48	Q13b 銀河系中心領域における $H^{13}CO^+$ 輝線、 SiO 輝線のマッピング観測 但木謙一（東京大学）	11:48	Q25a 背景磁場のある電子・イオンプラズマ中の非相対論的無衝突衝撃波 加藤恒彦（大阪大学）
15:48	Q14b 「すざく」衛星による鉄 $K\alpha$ 輝線を用いた銀河中心・銀河面 X 線放射の空間分布の研究 内山秀樹（京都大学）	12:00	Q26a 乱流衝撃波における粒子加速の直接シミュレーション 村主崇行（京都大学）
	Q15c VERAによるSgrB2の固有運動計測 小山友明（国立天文台）	3月27日（金）午後・D会場	
3月27日（金）午前・D会場		14:00	Q27a 超新星残骸に於ける乱流と磁場増幅 井上剛志（国立天文台）
10:00	Q16a フェルミ・ガンマ線宇宙望遠鏡による、拡散 γ 線放射の観測 水野恒史（広島大学）	14:12	Q28a 超新星残骸衝撃波での宇宙線による磁場の増幅 大平 豊（大阪大学）
10:12	Q17a Fermi衛星によるオリオン分子雲の観測 奥村 暁（東京大学）	14:24	Q29a 星間空間における炭素クラスターの探索 三澤 透（理化学研究所）
10:24	Q18a フェルミ・ガンマ線宇宙望遠鏡によるPWN候補の銀河系内 TeV ガンマ線源の観測 中森健之（東京工業大学）	14:36	Q30a M42におけるPAHと極微粒子の空間分布 原口健太郎（名古屋大学）
10:36	Q19a X 線による銀河中心領域における分子雲の奥行き分布の決定法 劉 周強（京都大学）	14:48	Q31a フォノンによる星間塵での熱伝導についての考察 釜谷秀幸（防衛大学校）
10:48	Q20a 銀河中心からの中性輝線放射の謎 信川正順（京都大学）	15:00	Q32a 「あかり」中間赤外線全天サーベイ 石原大助（東京大学）
11:00	Q21a 「すざく」による銀河面からの超軟 X 線放射の起源の解明 木村俊介（宇宙航空研究開発機構）	15:12	Q33a AKARI observations of supernova remnant G292.0+1.8 Ho-Gyu Lee (University of Tokyo/ Seoul National Univeristy)
11:12	Q22a 「すざく」による中性鉄輝線放射天体G 0.17-0.23の発見2 福岡亮輔（京都大学）	15:24	Q34a 2 Micron All Sky Survey を利用した分子雲コアの全天探査 土橋一仁（東京学芸大学）
11:24	Q23a 「すざく」による TeV 未同定天体HESS J1702-420の観測 藤永貴久（宇宙航空研究開発機構）	15:36	Q35a 可視光によるLockman Hole 近傍の赤外線シラスの観測 家中信幸（東京大学）
11:36	Q24a TeV 未同定天体HESS J1745-303の「すざく」による観測 馬場 彩（宇宙航空研究開発機構）	15:48	Q36a 高解像全天減光マップの作成 幸山常仁（名古屋大学）

R. 銀河

3月26日(木) 午後・G会場	
14:00	R01a 近傍矮小銀河 NGC 6822 のサブミリ波 CO(J=3-2) 輝線マッピング観測 濤崎智佳 (国立天文台)
14:12	R02a 近傍銀河 M33 の低温ダストとその加熱源 小麦真也 (東京大学)
14:24	R03a The buried starburst in the interacting galaxy, II Zw 096 as revealed by the Spitzer Space Telescope 稲見華恵 (Caltech,JAXA,Sokendai)
14:36	R04a 「あかり」による近傍銀河 NGC253 の銀河ハローの遠赤外線観測 金田英宏 (名古屋大学)
14:48	R05a 矮小銀河観測から探る低重元素率環境のダスト 平下博之 (台湾中央研究院)
15:00	R06a SDSSJ1004+4112 を用いた赤方偏移 0.68 における M-sigma Relation 稲田直久 (理化学研究所)
15:12	R07b 棒渦巻銀河の衝撃波領域における高密度ガスの割合と星形成 渡辺祥正 (北海道大学)
15:12	R08b 野辺山ミリ波干渉計による赤外線銀河の高密度分子ガスの観測:最終サンプル 今西昌俊 (国立天文台)
15:12	R09b 「あかり」による NGC1313 の星形成領域の赤外線観測 鈴木仁研 (国立天文台)
15:24	R10b Gravitational potential and X-ray luminosities of early-type galaxies observed with XMM-Newton and Chandra 薙野 綾 (東京理科大学)
15:24	R11b 「すざく」で観測された S0 銀河 NGC1316 の星間ガスの重元素組成比 小波さおり (理化学研究所 / 東京理科大学)
15:24	R12b アンドロメダ・ストリーム 三木洋平 (筑波大学)
15:36	R13b 球状星団内で形成された連星中性子星の合体率 谷川 衝 (東京大学 / 国立天文台)
15:36	R14b ミラ型変光星を用いた銀河系中心までの距離測定 松永典之 (京都大学)
15:36	R15b 銀河系中心核周リングへの落下ガスの SiO 輝線高分解能観測 佐藤麻美子 (東京大学)
15:48	R16b 銀河系外縁部 OB 型候補星の分光追観測 鈴木 豊 (鹿児島大学)
15:48	R17b すばる HDS 可視高分散分光データによる銀河系外部ハローの化学組成解析 石垣美歩 (東北大学)
	R18c 銀河系中心部の磁場構造の新たな研究手法-近赤外線偏光観測- 西山正吾 (京都大学)
	R19c 近傍の棒渦巻銀河 M 83 で同定された CO(3-2) GMA の物理的性質 村岡和幸 (国立天文台)
	R20c 山口 32m 望遠鏡による局部銀河群内の 6.7 GHz メタノールメーザー源探査 澤田 - 佐藤聡子 (山口大学)
	R21c MOA-I による重力マイクロレンズ法を用いた MACHOs 探索 牧田将太 (名古屋大学)
	R22c Halo Shape of our Galaxy 山縣朋彦 (文教大学)

3月27日(金) 午前・G会場		3月27日(金) 午後・G会場	
10:00	R23a 銀河渦巻構造の維持発生機構の新理論 和田桂一 (国立天文台)	14:00	R33a OAO/KOOLS による古い散開星団の 視線速度の測定 長谷川 隆 (ぐんま天文台)
10:12	R24a 渦巻き銀河の3次元N体/SPH計算 馬場淳一 (東北大学)	14:12	R34a 銀河系内側円盤における外縁方向への 系統運動の検出 坂本 強 (日本スペースガード協会)
10:24	R25a 銀河の非円運動—理論と観測 牧野淳一郎 (国立天文台)	14:24	R35a The VST-2SB Galactic Plane Survey II: An Observed Probability Distribution Function. 依田崇弘 (東京大学)
10:36	R26a VLBIによる銀河の非円運動の観測結果 朝木義晴 (宇宙航空研究開発機構)	14:36	R36a 輝線撮像観測による近傍渦巻銀河の HII領域の研究 柏木雄太 (東京学芸大学)
10:48	R27a VLBIによる銀河円盤観測の意義と精度 三好 真 (国立天文台)	14:48	R37a すばる主焦点カメラで探るアンドロメダ 恒星ハローの構造と種族 田中幹人 (国立天文台)
11:00	R28a ASURAによる銀河シミュレーション 斎藤貴之 (国立天文台)	15:00	R38a 「すざく」衛星によるS0銀河NGC 4382の重元素量の観測 薙野 綾 (東京理科大学)
11:12	R29a ASURAによる様々な衝突パラメータを 用いた渦巻き銀河衝突実験 松井秀徳 (国立天文台)	15:12	R39a 原始バイナリーブラックホールの進化I. 暗黒物質との相互作用 早崎公威 (京都大学)
11:24	R30a GRAPE-DR用エルミート積分相互作用 ライブラリの実装および性能評価 小池邦昭 (総合研究大学院大学)	15:24	R40a 補償光学装置を用いたDLA母銀河検 出の可能性 大越克也 (東京理科大学)
11:36	R31a 銀河系中心部における大質量ガス円 盤の進化 行方大輔 (北海道大学)	15:36	R41a $z=4.05$ で起こったGRB 060206母銀河 の元素組成について 青木賢太郎 (国立天文台)
11:48	R32a 矮小銀河におけるdynamical friction 抑制の検証 井上茂樹 (東北大学)		

S. 活動銀河核

3月24日(火) 午後1・E会場			
13:00	S01a	CTA時代におけるTeVブレーザー探査 井上芳幸(京都大学)	15:00 S13b 全天X線監視装置(MAXI)によるサーベイと活動銀河核カタログ 廣井和雄(京都大学)
13:12	S02a	Fermi衛星によるNGC1275からのガンマ線放射の発見 片岡 淳(東京工業大学)	S14c Swift/BAT硬X線サーベイで見つかった新AGNの「すざく」による観測(III) 江口智士(京都大学)
13:24	S03a	すざくによるTeVブレーザー Mrk421 高感度観測 牛尾雅佳(宇宙航空研究開発機構)	
13:36	S04a	「すざく」による活動銀河核からのX線放射の異なる変動成分への分解 上原悠一(東京大学)	3月24日(火) 午後2・E会場
13:48	S05a	「すざく」衛星で観測されたセイファート銀河NGC 4051のX線スペクトル変動の解釈 寺島雄一(愛媛大学)	16:00 S15a 2MASS、ROSAT点源カタログにより得られたクエーサー・AGN候補天体 高妻真次郎(九州大学)
14:00	S06a	「すざく」衛星によるセイファート銀河の時間変動解析 宮澤拓也(名古屋大学)	16:12 S16a Dust Obscured Type-1 AGN in AKARI North Ecliptic Pole Deep Field 松原英雄(宇宙航空研究開発機構)
14:12	S07a	Fermi衛星とかなた望遠鏡によるブレーザーの多波長同時観測 安田 創(広島大学)	16:24 S17a 赤外線天文衛星「あかり」中間赤外線全天サーベイを用いての活動銀河核探査 大藪進喜(宇宙航空研究開発機構)
14:24	S08a	MITSuME望遠鏡によるブレーザーの長期モニター観測 森 由希(東京工業大学)	16:36 S18a クエーサーにおけるFe II/Mg II輝線強度比とFWHM(Mg II)との相関 鮫島寛明(東京大学)
14:36	S09a	かなた望遠鏡によるブレーザーBL Lacの可視近赤外線偏光観測：光度曲線と変動偏光成分の相関関係 先本清志(広島大学)	16:48 S19a 狭輝線領域における窒素輝線を用いた重元素量診断について 松岡健太(愛媛大学)
14:48	S10a	AO 0235+164の2008年アウトバーストと可視偏光およびγ線の挙動 笹田真人(広島大学)	3月25日(水) 午前・E会場
15:00	S11b	散乱X線に着目した隠されたAGNサンプルの構築とその多波長における性質 野口和久(愛媛大学)	10:00 S20a 反跳巨大ブラックホールからの放射 藤田 裕(大阪大学)
15:00	S12b	すざく衛星による狭輝線1型セイファート銀河TonS180のワイドバンドX線観測 高橋宏明(大阪大学)	10:12 S21a VLBI多周波同時観測による低光度AGN M81の電波放射に関する研究 秦 和弘(総合研究大学院大学)
			10:24 S22a Exploring the disk-jet connection from the properties of narrow line regions in powerful young radio-loud AGNs 長尾 透(愛媛大学)

T. 銀河団

			3月26日(木) 午前・A会場
10:36	S23a	NGC4258 の降着円盤での水分子形成と質量降着率 甲斐隆志 (熊本大学)	10:00 T01a 銀河団衝突にともなう高温ガスの運動がひきおこす特徴的な磁場構造 滝沢元和 (山形大学)
10:48	S24a	MAGNUM プロジェクト (1) 距離指標としての MAGNUM 関係の評価 吉井 譲 (東京大学)	10:12 T02a 衝突銀河団 1E0657-56 における非平衡電離・2温度状態の数値実験 赤堀卓也 (筑波大学)
11:00	S25a	MAGNUM プロジェクト (2) 全自動天文台、その運用と観測 小林行泰 (国立天文台)	10:24 T03a 「すざく」による MS 1512.4+3647 銀河団プラズマの重元素組成の研究 川原田 円 (理化学研究所)
11:12	S26a	MAGNUM プロジェクト (3) 自動観測システム 青木 勉 (東京大学)	10:36 T04a 「すざく」で観測された Fossil group NGC1550 の重元素分布 佐藤浩介 (金沢大学)
11:24	S27a	MAGNUM プロジェクト (4) 近傍セイファート銀河におけるダストーラス内縁半径の測定 越田進太郎 (東京大学/国立天文台)	10:48 T05a すざく衛星による Fornax 銀河団のオフセット観測 小宮山 円 (東京理科大学)
11:36	S28a	MAGNUM プロジェクト (5) AGN 可視光度変動を利用した母銀河成分の推定と MAGNUM QSO 天体への応用 坂田 悠 (東京大学)	11:00 T06a 「すざく」衛星による Abell 1413 の温度と重力質量測定 星野晶夫 (首都大学東京)
11:48	S29a	MAGNUM プロジェクト (6) クエーサー 31 天体の可視近赤外線モニター観測と変光遅延 菅原章太 (東京大学)	11:12 T07a すざく衛星による Abell 2319 銀河団の広帯域スペクトル解析 菅原知佳 (山形大学)
12:00	S30a	MAGNUM プロジェクト (7) 変光から探る活動銀河核中心部の構造と放射 峰崎岳夫 (東京大学)	11:24 T08a すざくによる EGRET 未同定天体の観測: 大規模構造形成に伴う非熱的放射の探査 真喜屋龍 (京都大学)
12:12	S31b	Swift/BAT 硬 X 線サーベイによる南天 AGN 完全サンプルの可視追求観測 石野佑紀子 (京都大学)	11:36 T09a $z=0.83$ の銀河団にある早期型銀河の分光学的性質と環境効果 山田善彦 (国立天文台)
12:12	S32b	JVO ファーストライト: AGN に付随した銀河のクラスターリングを検出 白崎裕治 (国立天文台)	11:48 T10a 多波長測光によるコンパクト銀河群早期型銀河の星生成の研究 猿谷友孝 (東京学芸大学)
12:12	S33b	1.4GHz における長期変動性電波源の検出 貴田寿美子 (早稲田大学)	12:00 T11a Weak Lensing Mass Measurements of Substructures in COMA Cluster with Subaru/Suprime-Cam 岡部信広 (東北大学)
			12:12 T12b X 線と弱重力レンズによる ZwCl0823.3+4250 銀河団周辺の大規模構造フィラメントの解析 渡邊瑛里 (山形大学)

U. 宇宙論

3月24日(火) 午後1・D会場		16:24	U13a	宇宙膨張論の検証 XII 空間膨張宇宙の光の軌跡(8) 深宇宙の情景は空間膨張宇宙を否定する 阿武靖彦 (-)
13:00	U01a			
				現在の観測的制限に於けるスカラーテンソル宇宙論 鈴木隆之 (山形大学)
13:12	U02a	16:36	U14a	ビッグバンはなかった! 赤方偏移と3K放射の真の原因 佐野雄二 (総合科学研究所)
				インフレーション起源の背景重力波から探る宇宙再加熱 黒柳幸子 (名古屋大学)
13:24	U03a	16:48	U15b	宇宙背景放射はビッグバンの以前にできたのかビッグバンの以後できたのか。宇宙背景放射は自転軌道エネルギーなのか、公転軌道エネルギーなのか。 小堀しづ (-)
				初期磁場の制限 山崎 大 (国立天文台)
13:36	U04a	16:48	U16b	銀河系の腕を3種類に分類する。腕の螺旋回転速度はいくらか。 小堀しづ (-)
				宇宙背景放射の2次摂動による温度揺らぎの三点相関関数 新田大輔 (東北大学)
13:48	U05a	3月25日(水) 午前・D会場		
		10:00	U17a	Intrinsic ellipticity correlation of luminous red galaxies 奥村哲平 (上海天文台)
				WMAP 5yr と軽元素量の観測を用いたニュートリノ chemical potential の制限 白石希典 (名古屋大学)
14:00	U06a	10:12	U18a	暗黒乱流 ~自己重力系が示すスケールリング~ 中道晶香 (ぐんま天文台)
				修正重力理論における質量パワースペクトルの非線形進化 樽家篤史 (東京大学)
14:12	U07a	10:24	U19a	Multiple Main Sequence of Globular Clusters as a Result of Inhomogeneous Big Bang Nucleosynthesis 守屋 堯 (東京大学)
				SDSS LRG パワースペクトルの赤方偏移依存性 佐藤貴浩 (広島大学)
14:24	U08a	10:36	U20a	ガンマ線バーストの新しい距離指標と宇宙論 筒井 亮 (京都大学)
				赤方偏移空間におけるバリオン音響振動の非線形進化 西道啓博 (東京大学)
14:36	U09a	10:48	U21b	暗黒エネルギーの密度ゆらぎが宇宙論パラメタ決定へ与える影響 市来浄與 (名古屋大学)
				バリオン音響振動の減衰における赤方偏移歪みの影響 野村英範 (広島大学)
14:48	U10a	10:48	U22b	宇宙初期における非一様重元素合成 中村理央 (九州大学)
				バリオン音響振動から宇宙パラメターを推定する際の非ガウス誤差の影響 高橋龍一 (名古屋大学)
3月24日(火) 午後2・D会場		10:48	U23b	Lemaître-Tolman-Bondi 時空における粒子軌道 荒木田英禎 (早稲田大学)
16:00	U11a			
				宇宙論的弱重力レンズ解析における測光的赤方偏移誤差の影響 西澤 淳 (国立天文台)
16:12	U12a		U24c	Magnitude red shift relation in the Brans-Dicke theory with a cosmological term E. P. Berni Ann Thushari (Kyushu Univ.)
				すばる HSC サーベイに向けた弱い重力レンズシミュレーション 佐藤正典 (名古屋大学)

V. 地上観測機器

3月25日(水) 午後・E会場			
14:00	V01a Square Kilometer Array と国内での活動 中西裕之 (鹿児島大学)	11:12	V12a ALMA-J Computing の活動と進捗状況 小杉城治 (国立天文台)
14:12	V02a 超広帯域電波観測システムの開発状況報告 川口則幸 (国立天文台)	11:24	V13a ALMA データ解析ソフトウェア、CASA の開発 堤 貴弘 (国立天文台)
14:24	V03a 短時間電波トランジェント天体のサーベイ計画 大師堂経明 (早稲田大学)	11:36	V14a ALMA Band 4 受信機開発の進捗状況(VI) 浅山信一郎 (国立天文台)
14:36	V04a フリンジ解析での必要条件を考慮したソフトウェアの開発と那須データ解析 青木貴弘 (早稲田大学)	11:48	V15a ALMA Band10 受信機開発の進捗状況(II) 鵜澤佳徳 (国立天文台)
14:48	V05a 那須パルサー観測所における 2 素子ホーン干渉計の構築 田中 泰 (早稲田大学)	12:00	V16a ALMA Band10 導波管型 SIS ミキサ性能の向上 小嶋崇文(国立天文台/大阪府立大学)
3月26日(木) 午前・E会場		12:12	V17b ALMA Band8 受信機 - プレ量産 1 号機の評価 関本裕太郎 (国立天文台)
10:00	V06a テラヘルツ帯超伝導ホットエレクトロン・ボロメータミキサ受信機の開発(II) 山本 智 (東京大学)		V18c ACA アンテナ評価用光学望遠鏡 2 号機 直井隆浩 (国立天文台)
10:12	V07a パルスチューブ冷凍機をもちいた HEBM/QCL 受信機システムの開発 前澤裕之 (名古屋大学)		V19c ACA 12-m アンテナ主鏡面熱変形 FEM 解析 浮田信治 (国立天文台)
10:24	V08a ASTE サイトでの赤外線雲モニタデータを用いた観測環境評価 中川裕貴 (茨城大学)	12:12	V20b 超伝導トンネル接合を用いた参照信号源の開発 井上裕文 (東京大学)
10:36	V09a ALMA の建設(10) 井口 聖 (国立天文台)		V21c サブミリ波帯ワイヤーグリッドの高精度化 河合利秀 (名古屋大学)
10:48	V10a ACA 12m アンテナ性能評価試験 8 : 絶対指向精度(2) 中西康一郎 (国立天文台)		
11:00	V11a ACA 12m アンテナ性能評価試験 9 : オフセット指向追尾性能 齋藤正雄 (国立天文台)		

3月26日(木) 午後・E会場	
14:00	V22a 野辺山 45m 鏡用新観測システムの開発 久野成夫 (国立天文台)
14:12	V23b 野辺山 45m 鏡用 100 GHz 帯 2 ビーム両偏波・2SB 受信機の開発 中島 拓 (国立天文台)
	V24c 野辺山 45m 望遠鏡シングルビーム 2SB 受信機の改良 酒井 剛 (国立天文台)
14:12	V25b 4K GM 冷凍機の温度振動低減法に関する開発 箕輪昌裕 (大阪府立大学)
14:12	V26b 1.85m 電波望遠鏡のビーム伝送系の評価 國實真人 (大阪府立大学)
14:24	V27a 茨城 32m 電波望遠鏡 (高萩局、日立局) の整備計画 米倉覚則 (茨城大学)
14:36	V28b 茨城 32m 鏡搭載用 6.7GHz 帯冷却受信機の開発 西村 淳 (大阪府立大学)
14:36	V29b VERA6.7GHz 帯用多モードホーンの設計 氏原秀樹 (国立天文台)
14:36	V30b VERA 搭載用 6.7GHz 帯フロントエンドの開発 松本浩平 (大阪府立大学)
	V31c みさと 8m 電波望遠鏡の性能評価 宮崎 恵 (和歌山大学)
	V32c 大学 VLBI 連携観測の現状について 藤沢健太 (山口大学)
14:48	V33b 水沢 10m 電波望遠鏡の自動運用システムの改良 亀谷 収 (国立天文台)
14:48	V34b 3.9G 携帯電話システムと電波天文の周波数共用 中島潤一 (情報通信研究機構)
14:48	V35b FPGA による Radix-16 空間 FFT プロセッサの製作およびテスト 遊馬邦之 (鳩ヶ谷高校)
	V36c 素因数分解型 FFT を用いた 20m 干渉計解析ソフトウェアの開発 中川 翔 (早稲田大学)
	V37c 那須パルサー観測所ノイズサーベイ報告 新沼浩太郎 (早稲田大学)
15:00	V38a Japanese Virtual Observatory (JVO) の研究開発 - 2008 年度全体進捗 大石雅寿 (国立天文台)
15:12	V39b JVO の研究開発 - JVO の機能向上 田中昌宏 (国立天文台)
	V40c 京都大学 花山天文台 回折格子駆動部の製作 仲谷善一 (京都大学)
15:12	V41b 太陽偏光分光観測用赤外線カメラの性能評価 鈴木 勲 (国立天文台)
15:12	V42b 太陽全面像の高感度 imaging polarimetry 花岡庸一郎 (国立天文台)
15:24	V43b 可視1露出型偏光撮像器 HOWPol の開発 : (4) 駆動制御系と性能評価 田中祐行 (広島大学)
15:24	V44b 広視野冷却望遠鏡 II の開発と性能評価 原口健太郎 (名古屋大学)
15:24	V45b ピエゾアクチュエータと弾性ヒンジを用いた冷却振動鏡システム 中村友彦 (東京大学)
15:36	V46b 小型自動望遠鏡による GRB 赤外追観測のための赤外線カメラの性能評価 衣笠健三 (ぐんま天文台)

		3月27日(金) 午前・E会場			
15:36	V47b	デジタル一眼レフカメラによる突発変光天体観測システム AROMA-W の開発 2 高橋一郎 (青山学院大学)	10:00	V58a	京都大学飛騨天文台 SMART 望遠鏡の偏光測計測高度化 永田伸一 (京都大学)
	V48c	MOA-IRSF 連携観測による南天高赤方偏移 GRB 探査計画の開発現状 西本賢太 (名古屋大学)	10:12	V59a	太陽観測におけるシーイング測定装置としての DIMM の特性 川手朋子 (京都大学)
	V49c	すばる HDS における CCD の線形性についての調査と対策 田実晃人 (国立天文台)	10:24	V60a	木曾観測所新広視野カメラ (KWFC) のファーストライト 猿楽祐樹 (東京大学)
15:36	V50b	すばる「IRCS」による次期補償光学 (LGS/AO188) 自然ガイド星観測 寺田 宏 (国立天文台)	10:36	V61a	可視1露出型偏光撮像器 HOWPol の開発 : (3) ファーストライトと試験観測 川端弘治 (広島大学)
15:48	V51b	すばるレーザーガイド星補償光学系プロジェクト : レーザーガイド星生成システムの開発 (3) 齊藤嘉彦 (国立天文台)	10:48	V62a	かなた望遠鏡カセグレン焦点搭載装置「可視赤外線カメラ」の開発状況 III 宮本久嗣 (広島大学)
	V52c	すばる望遠鏡レーザーガイド星補償光学系プロジェクト : 光ファイバーによる高出力レーザー伝送系の特性 伊藤 周 (国立天文台)	11:00	V63a	球状星団 M15 を用いた Subaru AO188+IRCS の Isoplanatism チェック 澁谷隆俊 (総合研究大学院大学)
	V53c	すばるレーザーガイド星補償光学系の実時間制御系と動作パラメーター自動最適化システム 服部雅之 (国立天文台)	11:12	V64a	すばる望遠鏡高コントラスト撮像装置 HiCIAO : AO と組み合わせた性能評価 鈴木竜二 (国立天文台)
	V54c	補償光学装置による望遠鏡副鏡ティップティルトの制御 大屋 真 (国立天文台)	11:24	V65a	補償光学のための干渉型波面センサーの開発 眞子雄太 (東京農工大学)
15:48	V55b	3.8m 望遠鏡のための鏡筒トラス設計 栗田光樹夫 (名古屋大学)	11:36	V66a	すばるレーザーガイド星補償光学系プロジェクト : 初期性能評価結果とリスク付き共同利用報告 早野 裕 (国立天文台)
15:48	V56b	CGH を用いた軸外し非球面鏡測定用干渉計の開発 木野 勝 (名古屋大学)	11:48	V67a	すばる望遠鏡主焦点多天体分光器 FMOS: 共同利用観測開始に向けて 田村直之 (国立天文台)
	V57c	中国西部域サイト調査 2009 - チベットオマ地区での調査概況と調査機器構成 佐々木敏由紀 (国立天文台)			

W. 飛翔体観測機器

3月27日(金) 午後・E会場	3月25日(水) 午前・F会場
14:00 V68a 多開口干渉計のための新しい撮像方式の提案 松尾太郎 (JPL)	10:00 W01a JASMINE (赤外線位置天文観測衛星) 計画シリーズについて 郷田直輝 (国立天文台)
14:12 V69a 日本の ELT 計画 : TMT 計画への参画状況 高見英樹 (国立天文台)	10:12 W02a Nano-JASMINE 用 TDI ボードの開発と CCD の性能評価 牛山孝夫 (東海大学)
14:24 V70a 東京大学アタカマ 1m 望遠鏡進捗状況 本原顕太郎 (東京大学)	10:24 W03b 小型 JASMINE(主鏡口径 30cm 級) について 矢野太平 (国立天文台)
14:36 V71a チベット高原における極高エネルギーガンマ線観測計画(III) 大西宗博 (東京大学)	10:24 W04b 超小型位置天文衛星 Nano-JASMINE の望遠鏡開発 初鳥陽一 (国立天文台)
14:48 V72a チベット高原における極高エネルギーガンマ線観測計画(IV) 川田和正 (東京大学)	10:24 W05b 超小型衛星 Nano-JASMINE のミッションオンボード処理装置の開発 山田良透 (京都大学)
15:00 V73a TAMA300 の現状 (22) 新井宏二 (国立天文台)	10:36 W06a JASMINE 計画のためのレーザー干渉計型高精度望遠鏡ジオメトリモニターの研究開発 4 丹羽佳人 (京都大学 / 国立天文台)
15:12 V74a 神岡低温レーザー干渉計 CLIO 大橋正健 (東京大学)	10:48 W07a 気球搭載遠赤外線干渉計 FITE:ファーストフライト準備 芝井 広 (大阪大学)
	11:00 W08a 気球搭載遠赤外線干渉計 : 干渉光学系の性能評価 叶 哲生 (大阪大学)
	11:12 W09a 気球搭載遠赤外線干渉計 FITE : 中間赤外線検出器 松本有加 (名古屋大学)
	11:24 W10a 気球搭載遠赤外線干渉計 FITE : 3 軸姿勢制御システム 中島亜紗美 (名古屋大学)
	11:36 W11a 赤外線天文衛星「あかり」の現状 村上 浩 (宇宙航空研究開発機構)
	W12c 「あかり」中間赤外線全天サーベイカメラログ 石原大助 (東京大学)

11:48	W13a 次世代遠赤外線ゲルマニウム検出器の開発Ⅳ 和田健介 (東京工業大学)	3月26日(木) 午前・F会場	
12:00	W14b 「あかり」衛星搭載 近中間赤外カメラのスリットレス分光性能評価2 左近 樹 (東京大学)	10:00	W23a スペース重力波アンテナ DECIGO 計画 (11) 川村静児 (国立天文台)
12:00	W15b テラヘルツ帯大気球観測プロジェクト Tera-GATEにおける搭載望遠鏡開発: 指向エラー補正機構の現状と可視モニター光学系の結像性能 上塚貴史 (東京大学)	10:12	W24a スペース VLBI 計画: ASTRO-G (VSOP-2) の進捗 村田泰宏 (宇宙航空研究開発機構)
3月25日(水) 午後・F会場		10:24	W25a ASTRO-G/VSOP2 衛星搭載 22/43GHz フロントエンド EM の RF 性能試験 亀谷和久 (宇宙航空研究開発機構)
14:00	W16a 次世代赤外線天文衛星 SPICA 計画の進捗 中川貴雄 (宇宙航空研究開発機構)	10:36	W26a VSOP-2 地上 VLBI 総合整備計画 -2012 年度後半打ち上げに向けて - 萩原喜昭 (国立天文台)
14:12	W17a 次世代赤外線天文衛星 SPICA における衛星システム検討状況 高橋伸宏 (宇宙航空研究開発機構)	10:48	W27a VSOP-2 Science Operation Center (SOC) (仮称) 構想 梅本智文 (国立天文台)
14:24	W18a 次世代赤外線天文衛星 SPICA 搭載 中間赤外線カメラの概念設計 和田武彦 (宇宙航空研究開発機構)	11:00	W28a VSOP-2 Key Science Program の方針 亀野誠二 (鹿児島大学)
14:36	W19a SPICA コロナグラフ: 特に装置仕様について 塩谷圭吾 (宇宙航空研究開発機構)	11:12	W29b 次期ミリ波スペース VLBI 計画: ASTRO-G 衛星開発の進捗 坪井昌人 (宇宙航空研究開発機構)
14:48	W20b 次期赤外線天文衛星 SPICA 冷却システムの概念設計 佐藤洋一 (宇宙航空研究開発機構)	11:12	W30b ASTRO-G/VSOP2 衛星搭載用多モードホーンの改良 氏原秀樹 (国立天文台)
14:48	W21b SAFARI: A FIR imaging spectrometer for SPICA 土井靖生 (東京大学)	11:12	W31b ASTRO-G 8GHz 帯フロントエンドのビームパターン・雑音・振動評価 黒岩宏一 (大阪府立大学)
	W22c SPICA 搭載中間赤外高分散分光器検討とイメージングレーティングの開発 池田優二 (フォトコーディング)		W32c Astro-G 観測信号・リンク系 河野裕介 (国立天文台)
			W33c Astro-G 冷却受信機のためのポラライザー、断熱導波管、ホーンの製作と評価 (4) 春日 隆 (法政大学)
		11:24	W34a ATC サブミリ波 1000 画素 SIS カメラの開発 関本裕太郎 (国立天文台)

11:36	W35b 将来の飛翔体搭載を見据えたテラヘルツ波デジタルカメラのための極低温電子回路システムの現状 日比康詞 (国立天文台)	14:48	W47b 小型衛星 PolariS 搭載用X線散乱イメージング偏光計の開発(2):プロトタイプモデルの試作 山内 学 (大阪大学)
11:36	W36b 超広視野初期宇宙探査衛星 WISH : 計画概要 山田 亨 (東北大学)	14:48	W48b 気球搭載硬X線偏光検出器 PoGOLite の地上キャリブレーション試験 (II) 水野恒史 (広島大学)
11:36	W37b WISH : 光学系検討 諸隈智貴 (国立天文台)	15:00	W49a ASTRO-H 搭載用軟 X 線撮像検出器 SXI の開発 (1) : カメラシステムの基本デザイン 鶴 剛 (京都大学)
11:48	W38b WISH : 大型フィルター交換機構の試作 岩田 生 (国立天文台)	15:12	W50a ASTRO-H 搭載用軟 X 線撮像検出器 SXI の開発 (2) : エレクトロニクスシステムの基本デザイン 林田 清 (大阪大学)
11:48	W39b WISH : 検出限界の評価 矢部清人 (京都大学)		
3月26日(木) 午後・F会場			
14:00	W40a 「すざく」衛星搭載硬X線検出器広帯域全天モニタ部(HXD-WAM)の現状(VII) 大野雅功 (宇宙航空研究開発機構)	15:24	W51b X線天文衛星 ASTRO-H 搭載 X 線 CCD カメラ (SXI) の紫外線対策 幸村孝由 (工学院大学)
14:12	W41a 全天 X 線監視装置の状況とその利用について 富田 洋 (宇宙航空研究開発機構)	15:24	W52b SpaceWire を使った ASTRO-H SXI データ取得システムの構築 藤永貴久 (宇宙航空研究開発機構)
14:24	W42a 全天 X 線監視装置 MAXI 搭載 GSC 比例計数管の K エスケープの位置依存性 中條宏隆 (日本大学/理化学研究所)	15:24	W53b P-ch X 線 CCD への中性子照射実験 澤田真理 (京都大学)
14:36	W43b 全天 X 線監視装置 MAXI の突発天体発見及び速報システムの開発状況 三好 翔 (日本大学)	15:36	W54b 次期 X 線天文衛星「Astro-H」搭載に向けた小型かつ軽量なアラインメントモニターの基礎開発(2) 染谷謙太郎 (宇宙航空研究開発機構 / 東京工業大学)
14:36	W44b X線マイクロカロリメータ動作のための断熱消磁冷凍機の基礎開発(2) 佐藤浩介 (金沢大学)	15:36	W55b X-mas 望遠鏡の補償光学における波面制御について 竹中恵理 (立教大学)
14:36	W45b 極低温冷凍機用ガスギャップ式ヒートスイッチの開発 横田 渉 (首都大学東京)	15:36	W56b DIOS 搭載用 X 線望遠鏡の開発 田原 譲 (名古屋大学)
14:48	W46b 小型衛星 PolariS 搭載用X線散乱イメージング偏光計の開発(1):シミュレーションによるデザイン検討 太田征宏 (大阪大学)	15:48	W57b 「すざく」搭載 X 線 CGD カメラ (XIS) の時刻付けの較正 その 2 松田桂子 (総合研究大学院大学 / ISAS/JAXA)

3月27日(金) 午前・F会場		3月27日(金) 午後・F会場	
10:00	W58a Astro-H/XRT : 開発の現状 (V) 栗木久光 (愛媛大学)	14:00	W68a 高温塑性変形を用いた軽量・高角度分解能のシリコン X 線反射鏡の基礎開発 白田渉雪 (首都大学東京)
10:12	W59a Astro-H HXT 用望遠鏡ハウジングの開発 III 伊東慶太郎 (愛媛大学)	14:12	W69a 超軽量・高角度分解能 新 MEMS X 線光学系の開発 (1) 三石郁之 (宇宙航空研究開発機構 / 東京大学)
10:24	W60a ASTRO-H/XRT : 硬 X 線望遠鏡開発システムの現状 古澤彰浩 (名古屋大学)	14:24	W70a ダークバリオン探査衛星計画 : DIOS および Xenia 大橋隆哉 (首都大学東京)
10:36	W61a 次期 X 線天文衛星 ASTRO-H (ex-NeXT) 搭載硬 X 線イメージャ (HXI) の開発の現状 (III) 中澤知洋 (東京大学)	14:36	W71a 符合化マスクと CCD を用いる X 線・ γ 線天体監視カメラの開発 小谷太郎 (青山学院大学)
10:48	W62a ASTRO-H/SXS 搭載機械式冷凍機の開発状況 佐藤洋一 (宇宙航空研究開発機構)	14:48	W72a TES 型 X 線マイクロカロリメータ分解能改善に向けた超伝導電流の制御 吉武 宏 (宇宙航空研究開発機構)
11:00	W63a ASTRO-H 衛星搭載マイクロカロリメータ SXS の開発 竹井 洋 (宇宙航空研究開発機構)	15:00	W73a 10keV を超える硬 X 線光子により CCD 内部で生成される電荷雲形状の実測 平賀純子 (理化学研究所)
11:12	W64a ASTRO-H 搭載 X 線マイクロカロリメータの信号処理系の開発 瀬田裕美 (埼玉大学)	15:12	W74a Fermi ガンマ線宇宙望遠鏡 LAT-TKR 検出器の性能モニタ 西野 翔 (広島大学)
11:24	W65a 次期 X 線衛星 ASTRO-H 搭載軟ガンマ線検出器に向けた Si-Pad 検出器の開発 松岡正之 (広島大学)	15:24	W75a Si/CdTe コンプトンカメラによるイメージングと偏光測定 青野博之 (宇宙航空研究開発機構)
11:36	W66a モンテカルロシミュレーションを用いた次期 X 線天文衛星 ASTRO-H 搭載軟ガンマ線検出器 SGD のバックグラウンド評価 梅木勇大 (広島大学)	15:36	W76a ソーラーセイル衛星搭載ガンマ線バースト偏光検出器の開発 村上敏夫 (金沢大学)
11:48	W67a 反射鏡の改良による X 線望遠鏡の結像性能の向上 (2) 林 多佳由 (宇宙航空研究開発機構)		

X. 銀河形成

3月26日(木) 午後・A会場	
14:00	X01a 第一世代星紫外線フィードバックの星質量依存性Ⅱ 長谷川賢二(筑波大学)
14:12	X02a 高赤方偏移 Lyman α Emitters の観測データと理論モデルの比較 小林正和(国立天文台)
14:24	X03a 高赤方偏移クェーサーから探る超巨大ブラックホールの成長過程 川勝 望(国立天文台)
14:36	X04a 紫外背景放射が銀河形成に与える影響の定量的評価 岡本 崇(筑波大学)
14:48	X05a ライマンアルファエミッターの化学力学進化モデル 森 正夫(筑波大学)
15:00	X06a $z \sim 50$ ができる宇宙で最初の星の進化と巨大ブラックホール形成Ⅰ 泉谷夏子(東京大学)
15:12	X07a $z \sim 50$ ができる宇宙で最初の星の進化と巨大ブラックホール形成Ⅱ(ダークマター対消滅の効果) 梅田秀之(東京大学)
15:24	X08a 準解析的銀河形成モデルにおけるパラメータ自動最適化 矢作日出樹(九州大学)
15:36	X09b 高赤方偏移星形成銀河における活動銀河核現象 山田 亨(東北大学)
15:36	X10b 30m 望遠鏡による銀河形成の研究のための超広視野 AO 多天体分光器の提案 秋山正幸(東北大学)
15:36	X11b AKARI Deep Field South で検出された遠赤外銀河の特徴 白旗麻衣(宇宙航空研究開発機構)
15:48	X12b AzTEC/ASTE による Subaru Deep Field 領域でのサブミリ波銀河探査 五十嵐 創(東京大学)
15:48	X13b AzTEC/ASTE による高赤方偏移電波銀河周辺でのサブミリ波銀河探査: 密度超過の多様性 田代素子(東京大学)
	X14c COSMOS プロジェクト: $z \sim 1.2$ における銀河の星質量 井手上祐子(愛媛大学)
	X15c $z=6.4$ 最遠方 QSO 周辺部における z -drop 銀河の個数密度超過の観測的研究 内海洋輔(総合研究大学院大学/国立天文台)
	X16c Spectroscopy of Lyman Break Galaxies at $z \sim 5$ with GMOS-N and S 梶野裕喜(京都大学)
	X17c 楕円銀河の形成に与える合体軌道パラメータの影響 大木 平(北海道大学)

3月27日(金) 午前・A会場		3月27日(金) 午後・A会場	
10:00	X18a 弱重力レンズで探る銀河団質量光度比の研究 内海洋輔 (総合研究大学院大学 / 国立天文台)	14:00	X28a 近赤外線狭帯域撮像によるRXJ1716銀河団 ($z=0.81$) のH α 輝線サーベイ 小山佑世 (東京大学)
10:12	X19a MOIRCS Deep Survey : $z < 3$ における銀河の恒星質量関数の進化 鍛冶澤賢 (東北大学)	14:12	X29a [OII] 狭帯域撮像で探る最遠 X 線銀河団 ($z=1.45$) の高い星形成活動性 林 将央 (東京大学)
10:24	X20a UKIDSS – SDSS で探る $z < 1$ における大質量銀河の形成と進化 松岡良樹 (東京大学)	14:24	X30a $z=3.1$ SSA22 領域における大きな輝線等価幅をもつ星形成銀河の性質 中村有希 (東北大学)
10:36	X21a ダストに埋もれたAGNと銀河のダウンサイジングの起源への示唆 今西昌俊 (国立天文台)	14:36	X31a Subaru Deep Field における $z \sim 3$ の Lyman-break 銀河の光度関数 丸山美代子 (日本大学)
10:48	X22a 「あかり」で探る特殊な遠方赤外線銀河 : PAH-luminous galaxies – II. 高木俊暢 (宇宙航空研究開発機構)	14:48	X32a Detections of Lyman Continuum from LAEs at $z \sim 3.2$ through VLT/FORS Narrow-band Imaging 岩田 生 (国立天文台)
11:00	X23a Luminosity functions of infrared sources in the AKARI NEP deep field 後藤友嗣 (Institute for Astronomy, University of Hawaii)	15:00	X33a The stellar populations of Lyman Break Galaxies at $z \sim 5$ in the GOODS-N 矢部清人 (京都大学)
11:12	X24a サブミリ波干渉計によるサブミリ波銀河 SSA22-AzTEC1 の対応天体検出 田村陽一 (東京大学)	15:12	X34a ライマンアルファエミッターの光学的特性と宇宙再電離との関係 矢島秀伸 (筑波大学)
11:24	X25a 高赤方偏移電波銀河周辺におけるサブミリ波銀河の密度超過の多様性 田代素子 (東京大学)	15:24	X35a 超金属欠乏星から探る宇宙初期銀河進化 小宮 悠 (東北大学)
11:36	X26a AzTEC/ASTE AKARI Deep Field-South サブミリ波銀河探査 廿日出文洋 (東京大学)	15:36	X36a ダークマターハローにおけるサブハロー分布のハロー間差異 石山智明 (東京大学 / 国立天文台)
11:48	X27a 超広視野初期宇宙探査衛星 WISH 計画と最遠方宇宙銀河観測 山田 亨 (東北大学)	15:48	X37a 渦状銀河からの質量放出に伴う力学応答解析とS0銀河の起源 欠畑賢之 (東京大学)

Y. 天文教育・その他

3月24日(火) 午後1・F会場	
13:00	Y01a 京大理学研究科における高校生対象の最先端科学の体験型学習講座 野上大作 (京都大学)
13:12	Y02b ぐんま天文台太陽分光器を用いた教育実践 中道晶香 (ぐんま天文台)
13:12	Y03b ナラトロジーを活用した天文学普及の試みー「星と森と絵本の家」開館に向けてー 縣 秀彦 (国立天文台)
13:12	Y04b 西はりま天文台公園オリジナル番組「キラキラch」 飯塚 亮 (兵庫県立西はりま天文台公園)
	Y05c 和歌山大学での星空案内人養成講座、ねらいと2年の報告 富田晃彦 (和歌山大学)
13:24	Y06a 小型望遠鏡とデジタルカメラによる恒星の色に関する教材資料の作成 田上佳恵 (東京学芸大学)
13:36	Y07a デジタル一眼レフカメラを用いた夜空の明るさ調査手法の提案 小野間史樹 (星空公団)
13:48	Y08b デジタルカメラを用いた星空の動画撮影 小澤友彦 (紀美野町みさと天文台)
13:48	Y09b SQMを用いた水戸市内の夜空の明るさ分布について 檜木梨花子 (茨城大学)
	Y10c 高校生における「星の日周運動」の理解度調査 中村文隆 (新潟大学)
13:48	Y11b 「一家に1枚 天体望遠鏡の400年」ポスターの制作 白田 - 佐藤功美子 (国立天文台)
14:00	Y12a ガリレオの望遠鏡精密復元プロジェクト(世界天文年・日本委員会主催企画)復元望遠鏡の製作 秋山晋一 (株) オプトワークス・アキヤマ)
14:12	Y13a デジタル動画を用いた天文学の教育普及 2. 望遠鏡の組立・分解の動画教材 渡辺謙仁 (大阪教育大学)
14:24	Y14a 天文衛星による観測データを用いた宇宙科学教育教材の作成 長瀬文昭 (神奈川大学 / 宇宙航空研究開発機構)
14:36	Y15b FITS データを用いた高校の天文教材の開発、実践とその評価 原 正 (埼玉県立豊岡高等学校)
14:36	Y16b 太陽 FITS 画像による実習教材の開発と授業実践 山村秀人 (滋賀県立愛知高等学校)
14:36	Y17b 東京学芸大学における星間雲の教材開発と教育実践 秋里 昂 (東京学芸大学)
	Y18c 手作1m電波望遠鏡製作とデータ解析の手引書 佐藤奈穂子 (和歌山大学)
14:48	Y19a 星空案内人(星のソムリエ™)資格認定制度の成果と課題 柴田晋平 (山形大学)
15:00	Y20b やまがた天文台における星空案内人養成～やさしい宇宙講座の運営～ 大澤 健 (山形大学)
15:00	Y21b 2段ロケット方式による星空案内人養成 渡邊瑛里 (山形大学)

3月24日(火) 午後2・F会場	
16:00	Y22a 研究者の生態展示－JAXA 相模原 キャンパスでの取り組み 阪本成一（宇宙航空研究開発機構）
16:12	Y23a 第16回衛星設計コンテストでの日本 天文学会賞の受賞 津村耕司（東京大学 / 宇宙航空研 究開発機構）
16:24	Y24b アマチュア天文界の学生集会－天 文冬の陣20年の歩みとこれから 鈴木隆之（第20回冬の陣実行委員会）
16:24	Y25b 4会共同声明「天文教育施設の機能 と役割を果たすために」アンケート調 査から見る天文教育施設の現状 安藤享平（天文教育普及研究会）
16:24	Y26b 東京国際科学フェスティバル開催～ 「科学」を通じた地域コミュニティの形 成 永井智哉（国立天文台）
	Y27c 一緒に宇宙探検をしよう 一男女共同 参画委員会の取り組み 林 左絵子（国立天文台）
16:36	Y28a マルチモーダル版天文学教科書の作 成：点図作成 嶺重 慎（京都大学）
16:48	Y29b マルチモーダル版天文学教科書の作 成：趣旨と特徴 高橋 淳 （茨城県立水海道第一高等学校）
16:48	Y30b 色彩科学を用いたサイエンスデザイン 4－教育現場において－ 芝田たける（大阪教育大学）
16:48	Y31b 光年 Light Year はいつ使われ始めたか 黒田武彦（兵庫県立大学・西はり ま天文台公園）

2009年2月20日発行

年会実行委員会

委員長	本間 希樹	(国立天文台)
委員	今西 昌俊	(国立天文台)
	岡 朋治	(慶應義塾大学)
	鹿野 良平	(国立天文台)
	幸村 孝由	(工学院大学)
	小久保 英一郎	(国立天文台)
	左近 樹	(東京大学)
	鈴木 知治	(東京大学)
	宮田 隆志	(東京大学)
	奥村 幸子	(国立天文台) 保育室担当

年会開催地理事

小川 英夫 (大阪府立大学)